

---

平成28年 第4回(定例)日出町議会会議録(第3日)

平成28年12月6日(火曜日)

---

議事日程(第3号)

平成28年12月6日 午前10時00分開議

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

---

本日の会議に付した事件

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

---

出席議員(16名)

1番	衛藤 清隆君	2番	岡山 栄蔵君
3番	阿部 真二君	4番	上野 満君
5番	金元 正生君	6番	川西 求一君
7番	岩尾 幸六君	8番	土田 亮治君
9番	池田 淳子君	10番	工藤 健次君
11番	安部 三郎君	12番	森 昭人君
13番	佐藤 隆信君	14番	熊谷 健作君
15番	佐藤 二郎君	16番	白水 昭義君

---

欠席議員(なし)

---

欠員(なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長 小野裕一郎君 係長 河野 匡位君

---

説明のため出席した者の職氏名

町長	……………	本田 博文君	副町長	……………	今宮 禮二君
教育長	……………	堀 仁一郎君	会計管理者兼会計課長	…	堀 雅之君
総務課長	……………	井川 功一君	財政課長	……………	脇 英訓君
政策推進課長	……………	大塚 一路君	契約検査室次長	……………	安田加津浩君
税務課長	……………	岡野 修二君	住民課長	……………	佐藤久美子君
福祉対策課長	……………	原田 秀正君	健康増進課長	……………	利光 隆男君
生活環境課長	……………	岩尾 修一君	商工観光課長	……………	藤原 寛君
農林水産課長	……………	野上 悟君	都市建設課長	……………	川野 敏治君
上下水道課長	……………	松本 義明君	教育委員会教育総務課長	…	藤本 英示君
教育委員会学校教育課長	…	浅野 邦広君	生涯学習課長	……………	佐藤 寛爾君
文化振興室長	……………	工藤 智弘君	代表監査委員	……………	阿部 長夫君
監査事務局長	……………	阿部 孝君	総務課課長補佐	……………	帯刀 志朗君
財政課課長補佐	……………	白水 順一君			

午前10時00分開議

○議長（白水 昭義君） 皆さん、おはようございます。

**開議の宣告**

○議長（白水 昭義君） ただいまの出席議員は16名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

**日程第1. 一般質問**

○議長（白水 昭義君） 日程第1、きのうに引き続き、一般質問を行います。

本日の議会報編集特別委員会委員長より、議会報編集のため一般質問者の写真撮影の許可の申し出がありましたので、これを許可します。

それでは、順次質問を許します。13番、佐藤隆信君。13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 日本共産党の佐藤隆信です。質問をいたします。

はじめに、日出町職員の増員と非正規雇用職員の待遇改善について質問いたします。

現在、日本の企業の雇用推移を見ますと、平成元年には非正規労働者は全体の19.1%でした。ところが、平成17年から急に増加して現在は37.5%までふえ、4割近くが非正規労働

者になってしまいました。これは日本の社会問題となっています。若い青年たちが結婚もできない、子供もなかなか産めなくなっています。つまり、少子高齢化がますますひどくなるばかりではありませんか。最近、マスコミなどでも問題にして取り上げています。また、政府も非正規雇用を取り上げるようになっていきます。ところが、近年、民間企業だけではなく地方自治体の非正規雇用の増加についてマスコミも取り上げるようになりました。日出町もその一翼を担っているのではないかとこのように私は思われます。

そこでお聞きします。現在の日出町の正職員は何人いるのでしょうか。次に、職員が欠員になっている課、要するに、いろいろな課がありますが、公民館も含めて何課ぐらいあるのでしょうか。次に、非常勤勤務職員は、現在何人いるのでしょうか。

以上について答弁をお願いします。

○議長（白水 昭義君） 総務課長、井川功一君。

○総務課長（井川 功一君） 佐藤隆信議員の御質問にお答えをいたします。

平成28年4月1日現在ですが、正規職員の数には209名でございます。

それから、職員が欠員になっている課はということでございます。ことしの4月1日の採用予定者のうち3名の辞退者が出たことによりまして、平成27年4月1日と比較いたしますと3名、正職員が減少しているのが現状でございます。ただし、臨時職員の採用や事務分掌等の見直しによりまして、欠員は生じていないというふうに考えてるところでございます。

それから、非常勤職員の人数でございます。ことしの4月1日現在でございますが、町長部局、教育委員会部局合わせまして、84名ということになっております。

以上でございます。（「何課が減った、課」と呼ぶ者あり）

○議長（白水 昭義君） 総務課長。

○総務課長（井川 功一君） 3名の辞退者によりまして、一応減った課ということでございますが、一応総務課、それから、健康増進課、生涯学習課という形になっております。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） じゃ、続きまして、お聞きします。

非常勤職員は何年間、雇用していますか。次に、1カ月間何日間雇用して、賃金は幾らですか。また、若い20代から30代の人は何人いるのでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 総務課長。

○総務課長（井川 功一君） 非常勤職員につきまして何年雇用していますかということでございますが、非常勤職員の任用期間でございますが、取り扱い規程の中に定められておりまして、12カ月を超えない範囲で必要な期間とする。ただし、特に必要と認める場合は、4回を限度として更新することができ、健康状態が良好で、職務の特殊性、その他の特別な事情のある場合は、

この限りではないということになっております。勤務状態等に問題がなければ、5年間は採用することということになっておるところでございます。

それから、1カ月間何日雇用しておりますか、それから、賃金は幾らですかということがございます。これにつきましても、取り扱い規程の中に定めておまして、勤務時間及び勤務日数ということがございます。基本的には1日7時間15分、9時から始めますと17時までという形になりますが、勤務の場合は、1カ月の勤務日数は17日以内となっております。また、1カ月の報酬でございますが、任務の特殊性や資格、勤務時間等によって多種ございます。標準的な事務補助を行っている非常勤職員の報酬金額は12万9,200円というふうになっております。

それから、20歳から30歳までの職員でございますが、現在、30歳以下の非常勤職員は4名でございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 次に、臨時職員についてお聞きします。

臨時職員は現在何人いるのでしょうか。また、この人の1カ月の賃金は幾らでしょうか。また、先ほども言ったように、若い20代から30代の人は何人いるのでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 総務課長。

○総務課長（井川 功一君） 臨時職員についてでございますが、ことしの4月1日現在でございますが、42名というふうになっております。

また、1カ月の賃金でございますが、臨時職員の1カ月の賃金につきましては、雇用日数でございますが、基本的には土日、祝日を除きます日、全てが勤務日となります。賃金につきましても、職種や資格等によって多種ございます。一般的な事務補助を行う臨時職員の1日の賃金は6,400円というふうになっております。

それから、20歳から30歳までの人数でございますが、今現在、7名という形になっております。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 今、聞いて、私は驚いているんですけど、非常勤と臨時で126名、要するに、9月現在だったらもっとふえてるというふうに思います。つまり、自治体の職員、日出町の役場の職員の状態を見ましても民間企業と変わらない。要するに、正職員がふえなくて非常勤と臨時ばかりがふえていると。全体で37%ぐらいになる。9月現在ではもっとふえるんじゃない。40%近くになっていると思います。なぜこんなに非常勤ばかり、臨時、非常勤がふえたのでしょうか。その原因は何とお思いでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 総務課長。

○総務課長（井川 功一君） 非常勤職員につきましては、特殊な資格等々の必要性がございます

ので、その特殊な資格を持つてる方を勤務という形で採用してるときが多うございますので、その分が増加した影響ではないかなというふうに思っております。

また、臨時職員につきましては、職員の出産休暇等々の代替職員という形で職員を採用しておりますので、その関係でふえてるといふふうに思っております。

また、臨時職員につきましては、幼稚園の預かり保育、それから学校等の時間給の職員等の増加ということで、臨時職員もふえてるといふふうに思っております。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） そういう形で臨時職員と非常勤がふえるのは、私はおかしいと思うんです。本当に技術者が必要なら、きちっとした正職員を雇うべきだと。

それと、もう一つ問題なのは、非常勤職員で1カ月の給与12万9,200円。4名の若い人もいます。実際、今、問題になってるのは、年間200万円以下の労働者が多くなって、ワーキングプアがふえているというふうに言われています。まさしく役場の非常勤職員もその状態だといふふうに思います。

そして、この若い人たちが、言うなら基本的には1年で首を切られるというようになっていきます。それで、本当に真面目に、日出町の役場の中で若い人が一生懸命働くといふふうになるでしょうか。職員の皆さんもそうと思いませんか。自分は頑張れば採用になるんだと、正職員になるんだという見込みがあつてこそ、仕事に専念はできるし、努力をしようと思ふんです。それが1年たてば基本的には首を切られてしまうといふ、こういう職員がどんどんふえていると。これで本当に行政の、私は仕事、うまくいかないといふふうに思ふんです。民間企業のひどい状況と変わらない。そういうふうになってしまっているというのが今の現状ではないでしょうか。

これまで、役場の職員の人員の増とか賃金が上がるというのは、ほとんど質問もしてこなかったし、多くの人々が、私自身も含めてタブー化されていたといふふうに思ふんです。でも、もう現状は、全国的にもこれぐらい自治体で非正規雇用がふえた。私の、この自治体を見ましても、異常なぐらいふえていると。この改善をしなくて行政は、私はうまくいかないといふふうに思ふんです。

昨日もここで災害やいろいろ起きたときに、担当課をきちっとつくって職員配置をしたらどうかといふふうにも言われました。当然そうだろうと。そうだったら今の役場の定員でできるわけは、私はないと思ふます。やはりきちっとした職種を持った、専門にできる正職員を採用してこそ、初めて災害に強いまちができるんだといふふうに思ふし、前回、公民館に行ったら、公民館は1人欠員だと。もう長い間、欠員になってるそうです。公民館活動というのは、いわゆる地域の住民の最も身近な活動であり、地域の活性化の役に立つ職場です。そこが定員欠員をずっとほっておかれると、そして、日曜、祭日にも働かなければならない状態が起きているといふような

状況を、なぜこんなにほたっておくのかというふうに私は思います。

そこで、本田町長がかわりました。工藤町長はできなかったか知らないけど、本田町長にぜひこの問題を解決するよう努力をしてもらいたいんですが、どうでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 佐藤隆信議員の御質問にお答えをいたします。

正規職員の増員についてということでしたが、今、退職する職員の再任用という問題も抱えております。今後は、再任用職員の採用が増加すると思われまますので、それを加味しながら新規の採用人数を考えていきたいというふうに思っております。

それから、賃金と報酬のことについてでございます。

これにつきましては、非常勤職員につきましては、ただいま申し上げましたように、未資格職種といったこともございます。そして、臨時職員の方につきましては、産休の代替あるいは事務補助を行うという臨時職員の方もいらっしゃいます。こういった皆さんの賃金や報酬につきましては、やはり他の自治体との均衡を考えながら決定する必要があるのではないかなというふうに思っております。

この賃金では一生懸命働いてくれないというお話がございましたけども、現在、私が見ている限りでは、職員の皆さんは一生懸命頑張っているというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 私は今、非常勤の職員が一生懸命働いていないということを言ってるんじゃないんです。こういう状況で役場に入ってる非常勤や臨時の職員が、将来性もない働き方をして、本気に役場の中で住民のために働こうちゅう気にならないでしょと言ってるんです。それは、自分に例えればそうだと思うんです、実際。私も郵便局に31年勤めていました。郵便局は、当時は非常勤が1人でも2人でもおれば、1年間雇用して、内部で試験をして、そして、それに通れば採用するという見込みがありました。だから、非常勤でも一生懸命やっだし、非常勤集まりました。だけど、今のように頑張っても一定のところにいったら首を切られてしまうというような状態だったら、それは確かに、もうお年をした、退職した後とか、もう、家庭の主婦でパート的に少しすればいいんだという人は別です。だけど、若い人が本気になって、今後将来のある人が仕事をするって言ったときに、これでいいのかちゅう私は思うんです。だから、少なくとも早急にこの3名の欠員を補充すること。

そして今、総務課長は公民館のことは言わなかったんですが、公民館にもし欠員があれば増員を早急にすること。

そして、もう一つ、私はお聞きしたいんですけど、今、非常勤におる人、この人は、規定はな

と思うんですが、何らかの方向で、例えば、職場の試験をすれば採用になるというような方向はとれるんでしょうか。それとも、それは一切、そういうことはできないのかどうか。

○議長（白水 昭義君） 総務課長。

○総務課長（井川 功一君） お答えさせていただきたいと思います。

まず1点でございますが、生涯学習課の職員ということでございますが、ことし、事務分掌を変更させていただきました。文化振興室ができた関係もございます。それから、昨年、図書館のほうに1名増員をしたという考えで、生涯学習が1名減ということになってるということで、先ほどの答弁をさせていただいたところでございます。

それから、職員の非常勤職員を採用ということでございますが、公平性を見ますと、日出町の採用職員の試験を受けていただくということが公平性を保つ上で必要ではなかろうかなというふうに考えてるところでございます。

それから、ことし4月の3名の辞退者につきましては、来年4月1日の採用に向けて今のところ考えてるところでございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 臨時職員、このデータをもらったのを見てもみますと、臨時職員が急にふえたのは平成27年と28年、27年が22人、28年が13人、51名と42名というふうになっています。何らかのここで、それだけ増員する必要があった、仕事ができたといいふうにあるのではないかといいふうに思います。この辺は何がふえたんですか。

○議長（白水 昭義君） 総務課長。

○総務課長（井川 功一君） 平成27年度に増加した理由でございますが、図書館が新しくできたところと、文化財の関係で20名ほどふえております。

それから、平成28年度は、引き続きということでふえてるところでございます。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） つまり、今の日出町のやり方としては、職場がふえれば臨時と非常勤で片づけていくという状況が、これを見ればはっきり出ているんじゃないかというふうに思うんです。職場がふえて、仕事もふえて、それを全部、臨時とか非常勤で賄っていくということは、私は正常じゃないというふうに思うんです。やはり一定の人員の正規の職員を、臨時を確保するというのをしないと、今後ますます非常勤と臨時で片づけていってしまうと。それでいくんだったらいいんじゃないかというふうな安易な形が私はでき上がってしまうと思うんです。だから、仕事もふえれば当然それに見合った職員の定数増をやるべきだというふうに思うんですが、町長、その辺を答弁してもらいたい。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 新しい職場ができたときに臨時職員で対応してるんじゃないかというお話だったと思います。

図書館等の新しい所属ができれば、当然そこに責任者を配置をいたします。そのもとで臨時職員の方でもできる仕事については、臨時職員の方を採用するという形で取り組むことはそんなに不自然なことではないんじゃないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） いや、そういうやり方をするから、例えば、生涯学習課から正職員を1人、引っこ抜いてその配置につけながらということは、生涯学習課から1人の人が減るということになるわけです。だから、やはり一つの仕事ができるときには少なくとも正職員を1人はふやすというふうにしないと、結局全部を臨時職員や非常勤じゃできないので、どこかから正職員を引っ張りぬいてきてその課に、その仕事に充てるというふうになるんじゃないんでしょうか。だから、やはり仕事がふえれば、当然正職員をふやすということをやらないと、生涯学習課のような、例えば公民館に、図書館に必要だと言ったら、そこに回すと。それで、あとは非常勤でやるというふうなことが起きるんじゃないですか。その辺はどうですか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 図書館ができたときに生涯学習課の職員を抜いたのかどうかということは、私もちょっと承知をしておりますけれども、一般的に考えれば、確かにおっしゃるように、新しい所属ができたときには、一定の職員の配置、増員が必要であろうかなということは私も理解ができるところでございます。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 少なくとも最低は、それはぜひ今後、検討してするようにしてください。そうじゃないと、日出町の役場の職場の中も臨時と非常勤で、悪くすれば半分半分が非常勤と臨時職員で埋まってしまうということのおそれが私は十分あると思います。これで本当に住民に責任を持てる行政の組織ができ上がるんだろうかというふうに思うんで、その改善を早急にしてもらいたい。

もう一つは、非正規雇用の方のやはり賃金は、生活のできる保障を私はすべきだというふうに思うんで、財政は苦しいと思います。苦しいと思いますけど、働く人は、きちっと生活のできることを保障するのが人を雇う雇用者の責任ではないかというふうに思いますので、ぜひそういうふうになりたいと思います。これで、この質問は終わります。



次に、新規農業者への生産資材購入、その他一定の支援をお願いしたいということです。

昨日もこの農業問題は、南端の過疎の問題が取り上げました。そしてまた、これなりずっといくと、日出町で限界集落が10年先には29地区もできるというふうにも答弁がありました。

新規就農者の生産資材購入をなぜ私が言うかと。まず、農業後継者がいなくなり、遊休農地がふえるばかりです。昨日も答弁がありましたように、限界集落が29地区も将来はふえるそうです。

なぜこんな状態になったのか。農家の人が仕事を怠けたからこういうふうになったのか。私はそうではないと思います。農家の人は他の人以上に働いて、それでも所得が上がらない。お米のように価格は大幅に引き下げられ、生産者はやめる人がふえるばかりです。これを、これまでの政府がやってきた農業に対する基幹産業としての道を認めなかったことがここまで運んできたんだと思う。それにひかえて、今度はTPPです。また、農協まで今後は解体するのでしょうか。それでは、ますます農村地帯は高齢化が進み、過疎化が進むばかりだと私は思います。

仮に政府がそうであっても、町はやはり第1次産業を守り、若者の後継者をつくらなきゃならないというふうに思います。今、私の地域では、この5年間で31歳と43歳の人がトマトをつくり、来年からは37歳の人が米づくりに入ります。後継者が3人できるようになります。それは、地域で農業をしても生活ができるという、そういう保障があれば、若い人が私は農業につくというふうに思います。町もそういう方向で、きのうもあったんですが、ブランド品づくり、または遊休農地の、どうしたら遊休農地をよくすることができるのか、そういう考えを具体的に今後は計画していると思いますが、それをするには、やはりきちっとしたスタッフも必要であるので、そういう人をつくらなきゃならないと思います。

そこで、新規就農者について、新規就農者は国の支援を受けることができる新規就農者と、そうではない個人でやる新規就農者というのがあります。国の支援を受ける人は大分いいんですが、家族農業のような新規就農者とすれば、ほとんど国は法人か営農集団じゃないと支援はないというふうに私は思っています。

そこで、新規就農者への生産資材購入などに支援をしている大分県内の自治体はあるでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 農林水産課長、野上悟君。

○農林水産課長（野上 悟君） 今、佐藤隆信議員の御質問にお答えします。

まず、冒頭に、日出町では議員おっしゃるような制度に対しての援助は行っていないところがあります。

次の、県内でのという御質問でございますが、2カ所、3カ所ですか、私の調べた範囲では、臼杵市、高田、豊後大野のという3市で独自の支援を行っているところであります。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 課長が答弁したとおりです。私も調査しました。日出町では個人へ対する新規就農者の支援はなかなかないということで、豊後大野や豊後高田では、機械や倉庫、そして苗、肥料、農薬などに支援をしています。大野では2分の1、豊後高田は上限が20万、そのかわり1回のみと。私も1回のみでいいというふうに思います。次からは生産をして、それなりの収益が上がるからいいと思うんです。新規就農者の1年目、これはかなりの金額が生産するのに必要です。その支援を日出町には今、ないわけですから、その支援をやったらどうでしょうかというのが私のきょうの質問です。その検討に入ることはできないでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 農林水産課長。

○農林水産課長（野上 悟君） 議員おっしゃいますように、農業後継者の問題、昨日も答弁させていただきましたが、その中で希望が持てないという言葉を使わせていただきました。希望が持てる農業とは、やはり実際に所得の安定だと考えております。日出町では、まだまだ本当に地域振興作物、特産品というものがはっきりいってありません。やり方によってはいろんないい事例もありますし、今後、魅力のあるものを行政としてつくっていかないといけないと思っております。

また、県内の3市では、いろいろな要件がございまして、認定農業者であるとか、しっかりしたくくりの中で補助制度を設けてるところであります。ですから、今後、きのうも言いましたが、他市ではないけど、日出に見合った制度があるかどうか、その辺も十分検討させていただくということでもあります。

以上であります。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 今、課長が、今後はそういう必要な、日出町に新しい、いろんな作物を開発をしながら、そういう支援を考えていきたいということだろうというふうに思います。その点はぜひ私はやってもらいたいのと、やはり新規就農者が入るのは、安定した生活ができること、そういう生産活動ができることが新規就農者が入ることだと思えます。所得がないのに入れと言っても無理だし、入ろうともしない。だから、そういう作物を日出町がやはり一定に、町だけで私はできないと思えます。

先般、私たちが横浜の横須賀に視察研修に行ったときに、家族農業でありながら一定の集団をつくって観光農園という農園をみずからがつくり上げた。そして、行政のかかわりは、例えば施設つくるのに、その施設の支援をすとか、農協のかかわり方は、農産物は農協には出してもらわないんだが、肥料や農薬は農協からとってもらうからいいということで農協も支援をすると

いう形をとられてます。そして、それは、私はあれは大成功してるというふうに見ました。私の委員長が報告したように、若い人がみんなする、嫁さん不足もないと。所得も結構たくさん上げるというふうなことになっていました。

日出町も私は都市近郊の農業だと思います。だから、やる気になればそういう農業が必ずできると。そのために行政はものをつくる、そういう支援をする、要するに新規就農者がふえれば、その人たちに支援をすることをやるのが行政のやる仕事じゃないかというふうに思いますので、その辺を全力を尽くしてやっていただきたいというふうに思います。

次に、県内、県外を問わず、空き家入居者、今、空き家バンクを日出町もしています。空き家入居者に町独自の支援をお願いしたいと思います。現在、日出町は空き家バンクの登録をしていますが、県の財政支援の10万円ですか、あれだけで、町独自の支援というものはないというふうに思いますが、何かあるでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 政策推進課長、大塚一路君。

○政策推進課長（大塚 一路君） それでは、佐藤隆信議員の質問にお答えします。

今現在、日出町における移住者に対する支援制度としましては、県外からの移住者を対象として移住者居住支援事業を実施してるところでございます。この制度につきましては、もう議員も既に御承知とは思いますが、概略を説明させていただきますと、県外の移住者に対しまして、家財処分、引っ越し奨励金等々、合わせて最大45万円を補助してるところでございます。

また、県内、いわゆる町外になりますけど、町外からの移住者に対しましては、空き家バンクを利用した場合、町単独事業であります日出町移住促進空き家利活用奨励補助金というのがございまして、登録者、利用者、おのおのに10万円を補助してるところでございます。

議員の質問にあります空き家バンク登録の家屋に対する補助ですが、先ほど説明しましたように、日出町でも支援制度がないわけではございません。今後、人口減少が予想される中において人口増につながる移住定住促進事業は、県内市町村においては重要な課題だと考えております。しかしながら、県内外からの移住者のさらなる支援導入に関しましては、従来からの住民の方々が、仮に町内の空き家を利用しても、借りても補助等はございません。そうした中で、追加支援等を検討するに当たり、県内外からの移住者に対してだけ、さらなる過度な支援はならないように、このあたりのバランスも考えなければならぬとは考えてるところでございます。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 空き家の、私がここで一番、そういう制度をつくってもらいたいちゅうのは、改修なんです。もう空き家ちゅうのはほとんどもう古い、新しいのを空き家ちゅうのほとんどないんで、古い空き家、それに入ってきたときにその人が、もうほとんど空き家だ

から家賃は安いと思います。もうただ同然で、また、持ってる人も壊せば大変お金がかかるので、空き家を使ってくればよいという人が圧倒的に多いと思います。ところが、家賃は安いんですけど、入ったときに中を修理をしなければ、なかなか簡単には入れないという家が多いわけです。そのときに、その修理に対する日出町の助成制度というのは、私はないんじゃないかというふうに思います。

県下で、宇佐市は補助3分の2、上限100万円というものをつくられています。他にもっと調べればあると思います。私は、二、三調べたんですけど、宇佐市が一番いいごとあるんですが、そういう制度をつくっています。

というのは、私の隣に今度、新しく入ってきたんですが、家賃は1万円でいいというふうになったんですが、家は結構大きいんですが、家主は修理はしないで、あなたが全部修理をしてくださいというんで100万以上かかりました、中に入るのに。だけど、そのときに日出町にはそういう制度がないんかって聞かれたんですけど、あったのは、先ほど課長が言われた10万円だけあって、あとはないということなんで、確かに、入る人が家の修理までして入れば大変なことなんで、空き家を町の登録されてバンクになっている、少なくともこの家に入る人たちに対しての一定の支援をしてもらいたいと。そうすれば、もっと日出町に入ることができるようになるし、空き家は改善されるんじゃないかというふうに思うんで、その点はどうでしょうか、町長。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 移住・定住促進政策については、人口減少がいわれる状況の中で重要な施策であるということは認識をしております。ただ、先ほど課長が説明を申し上げましたように、今現在、日出町に住まわれている住民に対する支援がない中で、移住者だけに対する過度な支援にはやはり慎重になるべきであるというふうに思っております。

ただ、町内でも辺地と従前から言われている地域においては、過疎化が厳しいところでありますので、そういった辺地地区で活性化を期待できる移住者に対して、そういった地域指定等を考慮した支援ができないかどうか、担当課に検討させてみたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） それでも私はいいと思います。きのう、同僚議員があったように、南端の問題とか、過疎地が急激に進んでいると。空き家はたくさんあります。そういうところに若い人たちが入ってくるというときに対してだけでも、その改修費用をつくって、過疎化を少しでも改善しようということについてはいいことだと思うんで、そういう方向でもぜひやってもらいたいし、そうすれば、もっともっと、少しでも過疎化は改善される方向に向くんじゃないか。というのは、豊後高田などにしても、竹田、確かに過疎が多い。特に竹田。そこでは、結構

優遇措置がいろいろ、入った人にとられるという状況が出て、たくさん最近は入ってきているという状況もできているので、日出町も最低でもその辺についてでも、ぜひやるという意向を出してもらいたいというふうに思うので、もう一度、町長お願いします。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 辺地と申し上げましたけども、昨日、衛藤議員のおっしゃられていた南端地域も、これにたしか該当したというふうに思っております。そういった地域での活性化につながるのであれば、検討する余地があるなというふうに思った次第でございます。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） これで質問を終わります。

.....

○議長（白水 昭義君） 3番、阿部真二君。3番。

○議員（3番 阿部 真二君） こんにちは。ただいま御指名いただきました3番、阿部真二でございます。本日は、通告書に従って、大きく3つの事項を中心に質問させていただきますので、明確な答弁をお願いいたします。

まず、教育方針について、堀新教育長、就任おめでとうでございます。教育現場、県教委など教育行政の神髓まで知り得る堀教育長だからこそできる発展的教育改革に大きな期待をしたいと思います。

日出町は、平成16年度より横浜市など先進地に続き、大分県では先陣を切って2学期制を導入、推進し、12年が過ぎようとしていますが、先進地では期待していた授業時間の増加は期待外れになり、通知表の回数が減ったことで保護者の不満が増加したなどの理由により、2学期制を廃止し、3学期制に戻している状況となっております。

そこで、伺います。日出町の2学期制を推進してよかった点、悪かった点は何でしょうか。

次の質問からは質問席で行います。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長、浅野邦広君。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） 阿部議員の御質問にお答えしたいと思います。

日出町では、平成16年度、ゆとりの中で確か学力を、を目標に掲げ、2学期制を導入しました。当時は、学校完全5日制の導入の3年目に当たり、授業日数が減少するとともに、学習指導要領の改訂により学習内容が削減されました。また、評価方法も、集団内の位置で評価する相対評価から、個人の到達度を評価する絶対評価に変わり、評価の根拠となる資料の充実が求められました。

そこで、日出町では、2学期制によって生み出されております授業時間数により、余裕のある

授業や個に応じたきめ細かな補充学習を実施してきました。また、学期が長くなったことで多くの評価資料を収集することが可能となり、絶対評価に対応した多面的な評価活動を充実させてきました。学習面以外でも、長期休業前の7月や12月に時間的な余裕が生まれるため、子供との相談活動等に時間をかけ、子供の実態把握やいじめ防止等に役立ててきています。

議員御指摘のように、悪かった点ということではありますが、いろいろな学習面等の成果も出ておりまして、悪かった点というのはこちらは余り感じておりませんが、2学期制と3学期制の違いから、県レベルで見たときに、日程のずれ等が生じて、その対応が学校現場でやりにくくなっているという事実があります。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 悪かったところは感じていないということなんですけれども、いろいろ確認というか調査する上で、2学期制にすると1学期、その学期が長くなったことによって期末テスト等々するとき、非常に長い期間での、テストを受けないといけないということで、なかなか、言い方は変ですけど、点がとりにくいか、すごく期間が長いので非常に戸惑うというか、覚えてないということがあるというふうに思っているんですけれども、その辺は、悪い点にはならないですか。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） 3学期制に比べテストの範囲が広がって、子供たちが取り組みづらいのではないかとということだと思いますが、期間は確かに長いのですが、その間、単元の終わりに小さなテストをしたりとかそういうことを繰り返して積み重ねる中で定期テストを迎えるということで、そういう意味では定期テストに対して逆に充実した取り組みができるのではないかと考えておりますし、その間に長期休みを迎える場合もあります。そういう中で、テストに対する、長期休みでも意識が途絶えることなく取り組みができるという面ではメリットの分もあるのではないかと思いますし、先ほど言いましたように、長く期間をとることによってテストに限らずいろんな評価に対する資料を収集することができますので、この期間が長いということは決してデメリットではないと考えております。デメリットであるとは考えておりません。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 充実した取り組みができるということで、デメリットではないということなんですけれども、先ほど答弁の中で、3学期制のところと2学期制で日程のずれがあるということと、先ほど私冒頭に言った通知表の回数が減ったということ等で、保護者からの不満とか、何か意見とかというようなことは何かありますか。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） まずは、中学校の保護者は、テストの後に成績表を配りますので、それほど、通知表が2回になったことによって評価が少ないという感じはないというふうに把握しております。小学校に関しては、10月の2週目に通知表を最初に配付することから、夏休みに入るときに、希望者による面談を実施しておりますが、そのときに連絡表、それまでのテストの結果であるとか、子供たちが自己評価したものであるとか、そういうものを学校独自で工夫をして渡しておりますので、子供たちの様子を伝えるための資料は学校で十分準備できているのではないかと考えております。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 中学校については特に問題もなくいっていると。小学校についても連絡表等々でやっているの、今のところ大きな問題はないということだと思いますけれども、最初12年前、いろんな課題というか、保護者とのいろんな意見の違い等々があったかと思うんですが、その辺振り返って、特に今のところ、全く2学期制として問題がないというふうに考えているでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） 平成21年度に、実施して5年たったときに保護者アンケート、教職員アンケートを実施しておりまして、昨年度、また学校へのアンケートを実施しておりますが、今議員が御指摘されるように、保護者の立場から考えたらいろいろ課題と思われる点があるかもしれませんので、また保護者アンケートをとりまして、その辺はこちらでまた情報収集をして検討していきたいと考えております。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 今後もアンケートをとって状況を確認するという事で、ぜひその辺はしっかり、誘導的なアンケートではなくて、本音のアンケートをとっていただきたいというふうに思います。

この2学期制、大分県でも日出町ぐらいじゃないかと思うんですが、ほんとにこれよい制度、よいのであれば先進地はだんだんやめているとか、県内でも横展開というか、導入する学校が出てきてもいいんじゃないかと思うんですけれども、今のところ広がりはできていない。逆に先進地では3学期に戻しているということ踏まえて、今のアンケートの話があるんですけれども、今後もこの2学期制というのは継続する方針でしょうか、見直しをする予定を立てるのでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） 導入当時の背景を考えますと、2学期制の導入とい

うのは非常に有効なものであったと思いますが、議員御指摘のように、県内では市町村で言えばもう日出町だけあるということは、ほかの市町村もいろんな教育改革の後、3学期制の中でいろんな工夫をして授業時数の確保であるとか評価の工夫をして教育課題に対応してきております。よって、2学期制を制度改革をすることなく、3学期制の中で対応してきたのではないかと考えております。

そういうことも踏まえて、今後、先ほども言いましたように、保護者アンケート、学校アンケート等も実施し、13年目に入りますが、これまでの取り組みや成果を改めて評価をして、今後のあり方について検討する会を設置したり、今学校運営協議会もありますので、そういうところなどにも意見を聞いたりしながら、先ほど言いましたようにあり方について考えていきたいと思っています。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） ぜひ、先ほどのアンケート等々も活用して、今後の方向性、あり方についてしっかり協議していただきたいと思います。

次に、昨日の先輩議員の質問への答弁にもあったように、不登校やいじめは少なからず町内でも発生しているようですが、そのような事件や学力向上に効果が期待できるとされる小中一貫校への移行は検討されているでしょうか。

なお、この質問は2年前の6月議会で1度質問し、当時の学校教育課長より、今後研究を深め、学校や保護者、地域の意向も踏まえながら検討課題としていきますとの答弁をいただいております。その辺を踏まえて今後どういうふうに持っていくのか、答弁をお願いします。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） ではまず、小中一貫校制度ということではありますが、冒頭、ちょっと言葉について御説明をさせていただきます。小中連携教育と小中一貫教育という言葉がありますが、文科省の定義を御紹介します。

小中連携教育というのは、小中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育ということになっております。

小中一貫教育というのは、今申しました小中連携教育のうち小中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育というふうな位置づけになっております。ちなみに、平成26年度の全国調査では、小中一貫教育を実施している市町村の割合は全国で12%となっております。この市町村も、例えば市全体やモデル地区も含めたところであり、12%ということになります。

現在の日出町の2校の中学校区では、議員が御指摘のあった2年前以降、また小中連携の取り組みを進め、大神中学校では小学校6年生の中学校での体験授業や中学校行事への参加、中学校



教員の小学校での教科指導、小中が合同の教職員研修を実施して子供たちの情報交換を図るということで、そういうことを可能な範囲で実施して、小学校から中学校への円滑な接続を図っております。

日出中校区では、児童生徒数が多くてなかなか連携がしにくい部分もあるんですが、4年前から、6年生が日出中学校に出向いて体験授業をしております。これは理科、英語で実施しているようです。

また、そのほかの取り組みとして、ノーメディアデーを小中毎月同じ日に取り組むなどの新しい取り組みも進めているところであります。

2年前、検討していくという御指摘でありましたが、現在は小中一貫校、これは一貫校にもいろんなタイプがあるんですが、でもその一貫校は設置せずに、先ほど出ました連携の取り組みをより充実させる方向で考えています。やはり連携を充実させるには、まずやはり人員の確保というのがどうしても必要になりますし、小中両方の免許を持っている教員であるとか、やはり人員に余裕が生まれないと乗り入れの授業とかは、乗り入れの授業というのは中学校の先生が小学校に行って授業をすとか、そういうことがなかなかできない状況にあります。ただ、大分県教育委員会としても、今人事の中で小学校、中学校の先生の人事交流も進めるようにしておりますので、そういうものも今後活用できる範囲で活用しながら、小中一貫教育の研究をさらに進めて、学校や保護者、地域の意向、先ほども言いましたように、学校運営協議会などでも相談させていただいて、前向きに検討していきたいと考えております。

まずは、小中連携教育の充実、これを大きな課題として今後取り組んでいきたいと思えます。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 一貫校というわけではなくて、小中連携を充実させていくということで、先ほど答弁の中で大神については小中連携を今でも強化してやっていると。ただ、日出中の場合はいろんな小学校から集まってくるので、なかなか難しいと。ただし、4年ぐらい前から体験教室、授業ですか、をやって、小中学校の連携を強化してきているということなんですけれども、例えば大神小中、今でも連携できているというところで、そういったところをモデル校として、県下でもまだそんなに一貫校ってないと思うんで、県下の先陣切って日出町でそういう、基本的には一貫校というのは全国的にもいいというふうに思われているというか、ことで進めて、だんだんふえつつある状況ですので、後発ではなくて、先発でやって、よいことをよそ広げていくと、日出町で教育を受けるといいことがあるよというような先進地としてやるというような考えはないでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） 先ほども申しましたように、小中一貫校には、もう完全に同じ敷地内につくる一体型と、敷地はちょっと隣合わせ、別々であるけれども、もう9年間を見越した、先ほど言いましたように教育課程を作成して取り組む併設型、この2つについてはいわゆる1年生から9年生ということになりますので、もう例えば校長は1人しかおりません。だから、今校長1人ずついるのがもう1人になるということでもあります。

それともう一つ、連携型というのがありまして、これは小中のそれぞれの校長がいて、それぞれの体制は維持しつつも、9年間を見越した教育課程を作成するなど、先ほど言いましたように、乗り入れの授業をするなどして連携を深めるという一貫校であります。だから、こういういろいろなタイプもありますし、先進的な取り組みをしている地域も、県内にも今できてきておりますので、そういうところも参考にしながら、余り他市町村という言葉をないんですが、そういうところ、県外も含めて、参考にしながらいずれは取り組んでいかないといけない課題だとは今のところは思っておりますが、早急にはというふうには今のところ考えておりません。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 今のところ、直近では考えていないということなんですけれども、いろんなやり方があるかと思っておりますので、それと、あと各小学校区、川崎、藤原、豊岡、大神等々ありますけれども、小学校の校舎、多分教室が数的にあと3学級、3学年ふえたときに対応できるというか、空き教室があるかどうか、その辺って何かわかりますか。

○議長（白水 昭義君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（浅野 邦広君） 全国的に見れば、児童生徒数の減少で空き教室がいろんな学校ふえてきているんですが、日出町はもうずっと児童数が今後もしばらくは横ばいの状態でありますので、実は、空き教室は余り余裕のない状態であります。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 日出町は人口減少と言いながら空き教室がない。子供の数は横ばいということで、非常にいい状況だとは思いますが、何が言いたかったかという、例えば空き教室があつて、そこに、大神は大神小中でいいんですけれども、日出の場合に、川崎、豊岡、藤原、日出か、ありますが、空き教室があるのであればそこで小学校の校舎内に中学校が入れるんじゃないかなというふうにちょっと思ったので聞いてみたんですけれども、そうではないということなんで、今後、一貫校または連携校をさらに進化させて、よりよい教育ができるようにしていただきたいというふうに思います。

今の質問と近いんですけれども、日出町には5つの小学校区がありますが、中学校は現在日出中、大神中の2校となっており、大神中は全校約130名ほどの、先ほどあった小中学連携教育校と。日出中はその他4つの小学校区から集約で、県下でも有数のマンモス校となっていること

は皆さん御存じのとおりだと思います。

そこで、今後の方針として、校区の見直しを行うような考えはありますか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長、藤本英示君。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 阿部議員の御質問にお答えします。

学校の校区につきましては、日出町立小学校及び中学校の就学に関する規則の中に、小中学校ごとの通学区域が指定されております。ですので、必然的に、就学する学校が決まってくるということなのですが、転居、それから身体的理由、教育上の配慮等で保護者が申し立てを行えば、教育委員会が承認して指定を変更することができるというふうになっております。今のところそういう形で、理由が限定されております。

生徒数のバランスを考慮したという理由で通学区域自体の見直しを行うということは、進学する中学校を決めてしまうことになりまして、同じ小学校で学んだ子供たちが別々な中学校に分けられてしまうということにもなるかと思えます。小中一貫教育の流れに逆行するようなどころもあるのではないかなというふうにも考えます。

日出町においては、昭和の大合併の際の旧町村をもとにした大字単位での区分けが旧来からのなれ親しんだ形になっておりますので、それを大きく変えていくというのは地域住民の方からのよって、要望が出てくるというのが前提になるのではないかと考えております。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 今答弁をいただいたんですけれども、例えば、私は大神の議員なんで、大神の場合で言いますと、大神中を考えたときに、先ほど言ったとおり、130名弱で、大抵中学生の皆さん部活をしているんですけれども、部活自体も存続が危うい部がたくさんあって、今、実際部活として成り立っているのが、卓球、テニス、吹奏楽、野球ぐらいしかない。そのほかのスポーツをしたい子供たちは日出中に行っているということで、今でも1クラス学級があるんですが、今後多分、さらに1クラスの学級になって、教員の数も減らされていくということが懸念されるんですけれども、そのところを踏まえて、そういう校区の見直し等々という話をしたんですが、そういう危機的な、危機的というか厳しい状況になっているんですけれども、その辺を見直す、考え直すというようなことは何か教育委員会として考えているのでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 先ほども申し上げましたが、校区を見直すことで同じ小学校で学んだ生徒さんが中学校で分かるといったことがいいのかどうかということ。それから、学校の生徒さんの数だけ大神中学校の生徒さんの数だけを考えてふやせばいいのかということなんですが、それはどちらかという根本的な解決方法ではないのかなというふうに私は

考えるんですが、大神地区の住民の方の数が、人数、人口がふえて、子供たちもふえて、大神小中学校の児童生徒数がふえるという形がとれば、自然と学校の生徒数の均衡もとれてくるのではないかというふうに考えます。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 逆にいいますと、日出中は800人規模の大きな学校ということで、逆に生徒の数に対して教員の数のあれもあるんでしょうけれども、逆に目が行き届かないとか、そういった逆の、大きな学校だからこそ起き得る逆の問題もあるんじゃないかと思うんですが、その辺は、余りにも大規模校ということで、その辺、何か改善するとか見直す計画ってありますか。

○議長（白水 昭義君） 教育長、堀仁一郎君。

○教育長（堀 仁一郎君） 大規模校の問題が今出ておりますけど、文科省の考える標準の学級数というのが中学校では12学級から18学級です。となると、各学年6学級ということで、現在大分県が独自に行っています小学校1、2年と中学校1年生の30人学級のおかげで、1年生の学級が増になっておりますけど、これは大分県独自の施策ということであります。だから、標準学級というのが12から18でありまして、そんなら日出中学校のことを考えた場合に、実は若干減って行って、将来的に、今700を切っているような状況でありますので、大規模大規模というんですけど、あくまでもこれは大分県の中での大規模校であって、いわゆる全国的に言えばそんなに大規模校というようなところではないというふうに私どもは考えておる次第であります。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 先ほどから答弁いただいておりますけれども、やっぱりどうしても豊岡、藤原、川崎、日出から日出中に行くということで、経済的というか、非常に難しい問題ではあるかと思っておりますけども、例えば、多分今子供の多い豊岡地区とかそういったところにもう一校というか、中学校をつくらとかっていうような、そういう考えはないんでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 教育長。

○教育長（堀 仁一郎君） 生徒減の中で、到底、学校をふやすというような考えは持っておりません。

ただ、今までの話を聞いていますと、いわゆる大神中学校と日出中学校の対比的なところということで、今後の子供に対する教育のいろんな問題、課題があるんじゃないかということでもあります。私としては、特色ある学校づくり、いわゆる小中の連携から小中一貫校、それから義務教育諸学校というようなことで文科省が言っておりますけれども、今、日出町の場合の連携という

のは部分的な連携でありまして、例えば連携の中で今県も国も推進しておりますけど、例えば中学校の教員と小学校の教員を入れかえるとか、免許の問題もありますけど。それから、大神中学校でありましたら、例えば教科によっては1つの中学校にいても授業時間数が少ないので配置できないというような定数の関係があります。その部分を小学校と兼ねることで、もう日課表の中に、例えば体育とか美術、図工です。そういった教科については中高でもう2階の中に入れて、中学校の教員が指導に行くとか、例えば専門的な体育とか理科です。理科なんかは実験観察が多いので、中学校の教員が小学校の5、6年生を担当するとか、そういった一歩踏み込んだ小中の連携というのを今後考えていかなければならないんじゃないかなと、そういうふうに考えております。それをずっと実践することで将来的には、どっちの形に持っていくかということは検証しながら、実際進めていかなければいけないと、そういうふうに考えているところであります。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 教育長、ありがとうございます。もうぜひ、そういうことで特色のある学校づくりということで、一歩踏み込んだ連携強化してもらって、子供の教育の発展に努めてほしいと思います。

あと関連として、各小学校区で小学生が無料で自由来館できる児童館が設置されているのが今大神のさざんか児童館、藤原の保健福祉センター内に設置されている日出町児童館と、同施設内にある日出町地域子育て支援センターはぐくみの3施設だと思いますけれども、そのほかの地域には自由来館できる児童館というものが無いと思いますけれども、今後、そういう児童館というようなものをつくる予定はありますか。（発言する者あり）

○議長（白水 昭義君） 質問者、いいですか。

○議員（3番 阿部 真二君） 済みません、ちょっと小学校の関係で関連というふうに思っていたんですけども、担当課が違うということなので、また次で質問したいと思います。

続きまして、観光振興についてです。

日出町はここ数年間、日出城跡周辺整備や、的山荘、暘谷駅周辺整備、回天記念公園など観光拠点整備に多額な資金を投じて観光振興に力を入れてきたと思いますが、本田町長の選挙公約では、観光には触れられておらず、きのうの同僚議員の29年度当初予算編成の質問の答弁でも、選挙公約を優先すると。特に子供医療費の拡大、給付型奨学金、小規模農家の支援を優先するというふうに発言されていたと思います。

そこで伺います。今まで築いてきた観光資源をどのように活用し、観光振興に生かすのか。また、今後、新規の観光振興への具体的な取り組みはあるでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 商工観光課長、藤原寛君。

○商工観光課長（藤原 寛君） それでは、阿部議員の御質問にお答えします。

まず、観光振興のバロメーターになる観光客数でございますけれども、平成25年に100万人を超え、その後、わずかではございますが増加している現状がございます。今後の取り組みについての御質問でございますが、本年度の主要事業は継続しながら、本年度制作する観光プロモーション映像の情報発信による誘客活動、また、大神、糸ヶ浜海岸線を中心とした食やスポーツツーリズムを視点に入れた取り組みも今後考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 今までやってきたことは継続するというので、それについて、観光プロモーション映像等々で集客力をアップするという事なので、観光についてはこれからも集客できるような施設にしていくということでもいいですか。

ぜひ、もう今まで多分25億円ぐらい投入して築いてきている資源ですので、ぜひ生かしていただきたいというふうに思います。

本議会初日の行政報告で、町長の報告の中に、「ザビエルの道」ウォーキングの参加者のことに触れられて、来年は参加者を倍にしたいというような報告があったかと思っておりますけれども、そういう倍にするというか、参加者をふやすための具体的な施策はあるでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 阿部議員の御質問にお答えいたします。

ウォーキングの参加人員を倍増とは答えてはなかったと思っております。800人規模を目指すとは私にはたしか回答したと認識をしておりますので、そういうことで御了解をいただきたいというふうに思っております。

具体的な方策については質問の中でも申し上げましたけれども、周知の方法だとか、開催場所の検討とか、いろんな形をする中で、増員を取り組んでいきたいというふうには思っております。

観光振興の今後の取り組みについてということで、先ほど商工観光課長からお答えを申し上げましたけれども、私の考えを申し上げさせていただきますと、25年に観光客数が102万人を超えて以降、100万人レベルを維持しているという状況でございます。

ことは糸ヶ浜海岸に民間ですけれども砂浜食堂とかサップテラスがオープンするといったことがございました。そして、町のパークゴルフ場も全面オープンが目前であるといったような状況でございます。新たな誘客の拠点の整備が進んでいると思っております。このほかにも、従来から歴史的な文化遺産を初めとする日出町には幾つかの観光資源がございます。観光振興については、私は単独の町で取り組むのではなくて、市町村の枠を超えた地域連携が重要な要素とな

ってくると考えております。そのために、例えば県北の自治体で構成している豊の国千年ロマン観光園、こういったものに参画していきたいと考えております。観光は交流人口の拡大による経済効果、それから雇用の確保にもつながってまいりますので、あらゆる関係団体と情報共有をしながら取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） ありがとうございます。今答弁いただきましたように、市町村の枠を超えた地域連携ということで、まさにちょっと言いたかったんですけども、今、オラショ巡礼の道というのも全長100キロぐらいあるコースであるんですが、あれ2市1町の取り組みでやられているかと思えますけれども、ああいうもので日出町が例えばリーダーシップをとってやるだとか、積極的に入り込んでやるというようなことをぜひやっていただきたいなというふうに思いますし、単独でやるというのは非常に難しいということなんですけれども、例えば、日出町の城下海岸等々を見てもわかるように、非常に景観のよい遊歩道が整備されております。あれ、もっとずっと日出から高尾、大神、真那井といった方向にずっと行くと、さらに美しい景観が望めるような海岸線になっていますので、すぐとは言いませんけれども、ずっと周遊できるというか、歩けるような遊歩道みたいなものを今後時間をかけてでも整備していくといったようなことをすると、健康増進にもつながるし、体力の強化、維持等にもつながる。しかも景観が非常によいということで、観光人口の増加も望めるというふうに思いますので、そういう、ちょっと何かつくるといえるか、日出町だからできるようなことをぜひ今後取り組みとしてやっていただきたいというふうに思います。

最後の質問に移ります。町長の目指す日出町の将来像について伺います。

5年、10年後、本田町長は日出町がどのような町になっていることを想像しているんでしょうか、答弁をお願いします。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 阿部議員の御質問にお答えいたします。

私は、さきの選挙において、まちづくりのビジョンとして、安心のまちづくりと活力あるまちづくりの2つを柱に掲げました。安心のまちづくりについては、安全・安心な生活環境づくり、子育て支援、福祉の充実、そして教育環境の整備を推進し、また活力あるまちづくりについては、中小企業の活動支援、農林水産業の支援、企業の誘致、健康づくりを推進していきたいと訴えてまいりました。

こういった施策の推進によりまして、安心して子供を産み育てることができる、そして、高齢者も障がいのある方も安心して暮らせる町にしていきたいと思っております。さらに、第1次産

業を元気にするとともに、企業誘致等により町をさらに活力のあるものにしていきたいと思っております。5年後、10年後の日出町の想像というお話でございますけども、私は、5年後、10年後には、住民の皆さんからだけではなく、町内外の皆さんから、住むなら日出町と言われるようなまちづくりを推進していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 3番。

○議員（3番 阿部 真二君） 町長、ありがとうございます。住むなら日出町というふうに近隣からも町内外からも言われるという町を目指して、今後の、何ていうか、第5次総合計画等々を踏まえて、そういうすばらしい町になることを期待して私の質問を終わります。

.....

○議長（白水 昭義君） 4番、上野満君。4番。

○議員（4番 上野 満君） 4番、上野です。通告書に従いまして、一般質問を行います。

まず、日出町新春健康マラソン大会についてです。

以前は、役場前をスタート、ゴールとしていましたが、現在では、大神海岸線を走るコースに変更になりました。コース周辺には、ホテルソラージュ大分・日出や、糸ヶ浜海浜公園、大神ファーム、回天公園、石ころたちの動物園など多くの観光スポットがあります。多くの人に観光地を知ってもらい、また、訪れてもらえるためにも、新春マラソン大会の参加者、来場者をふやして、大会をもっと盛り上げてもらいたいと思います。

そこで、質問ですが、ここ数年の参加者、来場者の推移はどうなっているか教えてください。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長、佐藤寛爾君。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） では、上野議員の御質問にお答えをします。

ここ数年の参加者の推移ということですが、過去3年間の申込者の推移ということで、平成25年度は601名、26年度、620名、27年度、670名の申し込みとなっております。ただ、27年度につきましては、悪天候のため中止というようなことになっております。平均しますと、約630名ほどで推移をしております。

また、26年度より車椅子の部、27年度より宣言タイムの部を設けましてやっております。申込者につきましては、それぞれ7名、10名というような形になっております。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） これ、町外からの参加者の割合とかわかりますか。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 町外からにつきましては、約、申込者の1割、10%程度とい



うようになっております。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） 平成26年度から27年度で50名ほどふえてるんですが、これはたしか、以前は、おおいたシティマラソンと開催日が重なってまして、この日をずらしてちょっとおくらせてやったために、ちょっと応募者がふえたということによいですか。その効果が出てるといふことで。どう思いますか。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 大変済みません。私、その辺ちょっと知らないところありますが、1月の行事等については、やっぱり日曜日を中心にいろんなイベント等が各地で開催されておりますので、その辺の部分での効果なりというものはあったんだというふうに思います。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） 今後、参加者、来場者をふやすための何か取り組みはありますか。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 参加者をふやすための対策ということですが、当然早目の募集周知をしたいというふうに思いますし、また、先ほど言われましたような日程の見直し、それから、種目の増加、コース設定も含めて検討していきたいというふうに考えております。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） 日程の見直しとか、早目の募集とかもいいんですけども、せっかく大神地区の海岸線で計画されてるんで、例えば、ハーモニーランドの割引券ですとか、ソラーージュの入浴券ですとか、糸ヶ浜のパークゴルフやサップの利用割引券ですとか、大神ファーム等の入場割引券を配布するとか、また、町内の飲食店の方に協力してもらって海鮮丼とかを何か安く提供してもらおうとか、そういうアイデアはないですか。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 今現在、副賞としまして、農協、漁協さん、ソラーージュ大分、日出水産さんとか、それぞれ協賛をしていただいた方、会社等から副賞というような形で記念品なりを提供をしていただいております。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） 農協、漁協からの記念品の提供というのもあるんですけど、今、先ほど言った、そういう割引券なりを配付するという考えはないですか。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 相手さんの意向もあるとは思いますが、そういう方向で検討は

していきたいというふうに思います。

○議長（白水 昭義君） 4 番。

○議員（4 番 上野 満君） じゃ、今後の参加者数の目標設定とかありますか。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 参加者の目標ですが、当面800名ということを目標にやっていきたいというふうに思います。

○議長（白水 昭義君） 4 番。

○議員（4 番 上野 満君） せっかく目標なんで倍とか、1,500とか2,000とか大きいことを言ってもらいたいと思うんですけども、そういう目標を達成するためにぜひともPDCAサイクルを活用して目標を達成してもらいたいと思います。

次に、会場にある消防団機庫の横の公衆トイレについてですが、これも老朽化しており、また、入り口には男女の区切りとかがありません。そのため多分、女性の方は利用しづらいと思います。また、屋根の部分も破損してしまっていて、この公衆トイレはマラソン大会の会場だけでなく、大神港の朝市に日曜日を除く毎日、多くの買い物客が訪れる場所です。昨年の漁協との意見交換会の場でもトイレ設置の要望があったと聞いています。この公衆トイレの改修または改築または新築の計画はありませんか。

○議長（白水 昭義君） 財政課長、脇英訓君。

○財政課長（脇 英訓君） 御質問の消防団機庫の横の公衆トイレでございます。管理はということになりますと、財政課、うちの管財係の管理ということになります。しかしながら、今、御質問にもありましたとおり、大神漁港のトイレとしての改修ということで、農林水産課のほうがあると思っておりますので、農林水産課のほうから答弁させていただきたいと思います。

○議長（白水 昭義君） 農林水産課長、野上悟君。

○農林水産課長（野上 悟君） 今、財政課長が申しましたけど、実際には、あそこは漁港区域外でありまして、当課の管轄じゃないということで、その辺は御認識をいただきたいと思います。

当課で今、検討しております。今、議員がおっしゃいましたように、日曜、祭日を除きまして、ほぼ毎日、開催されております朝市、それに、昨年より市場祭やハモ祭り、今、前に質問ありましたように新春マラソン等で、一年を通して多くの方が見えてる場所でございます。御指摘のように、他の公衆用トイレに比べまして非常に快適ではないというトイレというのが事実であります。議員も言われましたように、以前より改修要望を聞いておりますし、本年も漁協より要望書をいただいたところであります。

当課といたしましては、漁業者や来場者のために漁港区域内に多目的トイレを含めまして新設ができないか、また、他の補助制度を活用できないかなど、今、検討しているところであります。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 4 番。

○議員（4 番 上野 満君） 来年度中、以降でもいいんですけど、もう、ここで新しく建て直すとか、そういうことは、必ずやりますというようなことを言ってほしいんですけど、それはどうですか。

○議長（白水 昭義君） 農林水産課長。

○農林水産課長（野上 悟君） 当初予算の締め切りも近づいておりますし、町長ヒアリングの中で、当然漁協の要望もありますし、しっかり目を通していただきました。そういう中で、当課といたしましては、設計等を委託しながら予算に上げさせていただくように今、思っております。以上です。

○議長（白水 昭義君） 4 番。

○議員（4 番 上野 満君） ぜひ前向きに計画を立てていただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。町長の行政報告にもありましたが、大分県知事との意見交換会についてです。

新聞の記事では、県が城下かれいの養殖技術向上などに連携して取り組む、的山荘の耐震診断や補修を助成する、日本テキサスインスツルメンツ日出工場跡地への企業誘致に協力するなど都合したと。また、スクールソーシャルワーカーを本年度中に町内に配置すると記載されてましたが、具体的な意見交換会の内容について聞かせてください。

○議長（白水 昭義君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 上野議員の御質問にお答えをいたします。

1 1 月 1 日に、広瀬勝貞知事を役場の会議室にお迎えをいたしまして意見交換を行ったところでございます。私が就任してから早く日出町役場に行きたいという御希望をいただいております。なかなか日程の関係で都合がつきませんでした。1 1 月 1 日にお見えをいただいたところでございます。その中では、議員おっしゃいましたように、3 点ほかのことが意見交換したところでございます。

1 点目は、城下かれいの養殖についてでございます。

現在は、マコがれいの稚魚を日出町の間育成施設で育成しまして、約 1 2 センチになる 1 2 月に放流をいたしております。そして、このときに 1 千匹ほどは放流をせずに、さらに、1 5 センチ程度になるまで大神漁港にある養殖池にて育成をしております。これは、放流したときに、ほかの魚に捕食されにくいようにするためでございます。このマコがれいの養殖につきましましては、養殖池の水温管理、そして、プランクトンの発生しやすい環境づくりなどが必要なことから、専門的知識や技術が必要になります。そのため技術の支援や専門的な知識を有する人材の

確保について県の支援をお願いをしたところでは、これらの支援によりまして、稚魚の中間育成施設での育成中や放流後の生存率を上げて、漁獲量の増加につなげていきたいと思っております。

そして、もう一点は、的山荘の耐震診断あるいは補修のことについてでございます。

国重要文化財旧成清家日出別邸である的山荘は、既に築100年以上が経過し、老朽化が進行しています。また、建築当初の構造や屋敷地の地盤に耐震性の脆弱も指摘をされております。昭和39年以来、城下かれいの料亭として大分県を代表する社交、会席の場となり、皇室を初め、多くの著名人が訪れております。的山荘については、耐震診断補強案の策定を行うとともに、中長期的な保存計画を策定し、適切な保存修理を行う必要があります。多額な事業費になることが想定されることから、国への働きかけ、県の指導及び補助金等の支援をお願いをしたところでは、

そして、もう一点は、T I跡地の企業誘致についてでございます。

意見交換の冒頭に、日出町において川崎工業団地の企業誘致は喫緊の課題の一つであり、当団地の情報発信や企業の情報収集をしながら誘致活動に努めていることを申し上げました。知事には、特に県外企業について県の担当課を初め、県外の県各事務所と連携し、情報発信、企業訪問を行いたい旨を申し上げ、御支援をお願いした次第です。また、町単独事業での整備は財政的に厳しいため、交付金や補助金による支援をあわせてお願いしたところでございます。

そして、もう一点、スクールソーシャルワーカーについてでございますが、県が配置を進めておりまして、県内のほとんどの市町村、姫島村を除いてですが、整備が進んでいる状況から、日出町についても早く取り組んでほしいという御要望をいただいたところでございます。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） 城下かれいの養殖についてですけども、1千匹ほどを12月1日から養殖池に入れたということですけども、ことしから始めた事業ですか。もう始まっているということ。わかりました。

あと、的山荘の耐震診断や補修を助成するということですけども、こういう補助率ってどのくらい出るんでしょうか、県からの。

○議長（白水 昭義君） 文化振興室長、工藤智弘君。

○文化振興室長（工藤 智弘君） 今の質問にお答えします。

国の補助率が50%、県の補助率が8%となっております。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） 国が50%、県が8%ということですけども、的山荘に余りお金を使うなという議員が結構いるんで、なるべくもっと県からの補助金の率を上げてもらって、一般会計から少しでも持ち出さないように努力していただきたいと思います。

最後に、企業誘致の件ですけれども、きのうの答弁の中で7件の問い合わせがあるとありましたが、この中で実際に企業に出向いて説明して、相手の企業が興味を持って問い合わせをしてきたという企業は何社ありますか。

○議長（白水 昭義君） 商工観光課長、藤原寛君。

○商工観光課長（藤原 寛君） それでは、お答えをいたします。

昨日、御答弁申しあげました協議継続中の7社ということですのでよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）そのうち県の東京事務所、大阪事務所からの紹介がそれぞれ1社ずつありまして、そのうち1社は町の職員が企業訪問をしております。それから、町から直接行った企業訪問の数が1社になっております。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 4番。

○議員（4番 上野 満君） 企業誘致を真剣に考えるのであれば、やっぱり企業からの問い合わせが、ただ待つだけでなく、やっぱり県の協力が得られるのであれば、県の職員と一緒にあわせ、先ほど町長言いましたように、職員と一緒に企業に出向いて、やっぱり説明をやって誘致活動をすることもぜひ考えていただきたいと思います。そして、県との連携により、早い時期に城下かれいの養殖や企業誘致がうまく軌道に乗って実現するよう努力していただきたいと思います。また、スクールソーシャルワーカーの設置で不登校児童がなくなることを願っています。

これで質問を終わります。

.....

○議長（白水 昭義君） お諮りします。一般質問の途中ですが、ここで中断して、しばらく休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（白水 昭義君） 異議なしと認めます。したがって、しばらく休憩いたします。

午後1時10分より再開いたします。

午前11時54分休憩

.....

午後1時08分再開

○議長（白水 昭義君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

9番、池田淳子君。9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 9番、公明党の池田淳子です。通告に従いまして、一般質問を行います。

まず、ゼロ歳児へのB型肝炎ワクチン定期接種についてお聞きをしたいと思います。

B型肝炎ウイルスは、小児期に感染すると高い確率で持続感染状態、いわゆるキャリア化に陥ってしまうのが特徴です。仮に大人になって発症した場合、慢性肝炎に移行し、肝硬変、肝がんへと進行する危険もあります。

こうしたリスクを軽減するため、国は、ことし4月1日以降に産まれた1歳未満の乳児を対象に、ことし10月1日からB型肝炎ワクチンの定期接種化を開始いたしました。定期接種になったことにより、経済的負担面から考えると接種しやすい環境になったのではないかと思います。接種の対象者は何人いるのかお聞きをいたします。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長、原田秀正君。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 池田議員のB型肝炎の接種者の対象者数ということですが、10月末現在で、ことし4月からの出生児が116名になっております。出生後2カ月を経過した児童が対象となりますので、8月までの出生児の84名ということになります。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 通告書を出したのが先月でございましたので、接種が始まって2カ月に満たない期間が経過したわけですが、現在の接種率はいかがでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 接種率は、10月までにB型肝炎ワクチンを接種した児童数は延べ63名になっております。接種率が75.0%となりますが、既に自費で接種している児童等の不明数を含めると、接種率はもう少し上昇するかと思われます。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） ことし4月に産まれた乳児は、接種が始まった時点ではもう6カ月になってるわけです。3回接種しなければならぬことから、スケジュールが非常にタイトになってくると思いますけども、そういった方たちへの周知は行ったんですか。どういった方法で周知をしましたか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） まずは、チラシの配付、それと、町報への掲載並びに対象者と思われる児童への個別通知というふうなことを行っております。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 個別とお聞きをいたしまして安心をいたしました。ゼロ歳児が対象とはいうものの、昨年10月2日からことしの3月31日までに産まれた乳児は、定期接種がスタートをする10月1日時点ではゼロ歳児には変わらないんですけども、制度の対象にはなら

ないと思います。こうした不公平、同じゼロ歳児でありながら不公平が生じることを考えると、そういったものを解消するために、全額ではなくても、1回の接種が6,000円から8,000円かかる、それを3回接種しなければならないわけですので、そこを全額でなくとも何か助成を、補助の考え等はないでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） B型肝炎は、WHO（世界保健機関）の目標では、5歳児のB型肝炎のキャリア、持続感染を1%未満にするというふうに掲げております。日本では、母子感染予防の取り組みで、既にWHOの目標を達成できているという現状であります。国は、1歳未満で3回のワクチン接種を完了させる必要があると言っております。1歳未満で感染すると90%がキャリアとなってしまうと、御指摘のように。そして、生後、早期の接種のほうが免疫獲得率が高いことが理由だというふうに思われます。

御質問の、日出町では現在、国の定めた対象で実施をしておりますが、御指摘のワクチン接種の対象者の助成拡大については、対象児や実施方法等の諸課題もありますので、大変厳しい状況ではありますが、有効な施策になるよう検討していきたいというふうには思っております。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 有効な施策になるようとはどういうことでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 新しい政策が、制度創設の時期は、どこかでラインを引かなくてはならないかというふうには思いますが、基本的には国が定めた制度でいくのが本来だとは、最良の方法だというふうには思っておりますけども、池田議員のほうからいただいた御提言、御意見でございますので、特に感染のリスクが高い御家庭のお子さんに限っては、何らかの対象拡大をすることができるんじゃないかというふうなところを検討していきたいというふうに思っています。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 今、先ほどスケジュールの問題を申し上げました。非常にタイトなスケジュールで、半年間で3回打たないといけない、一番最初のほうは。そうすると、1歳を過ぎるとこれは対象から外れるので3回目が自費になるんです。そういうところを、本来であれば希望としては3歳児ぐらいまでの接種をお願いしたいところなんですけど、そうはいつでもいろいろな財源の問題ですとか、そういった他市町村との兼ね合いとかもあるんでしょう、そういうことできないのであれば、せめて1歳を過ぎて有償になる、有料になる部分を補助をしていただくとか、今、言う、同じゼロ歳児となる人を対象にするという形では考えていただけないですか。

○議長（白水 昭義君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） ことし3月31日以前に生まれた乳児に対する助成でございます。1歳未満で感染すると90%がキャリアになってしまうというような実態があるようでございます。生後早期の方のほうが免疫獲得率が高いということでございますけども、対象につきまして、先ほど池田議員からお話がありました、昨年10月2日からことしの3月31日までに生まれた出生児の方について助成を考えてまいりたいと思っておりますけども、ただ、日本ではもう既に5歳児のB型肝炎のキャリアが1%未満にするという目標を達成できている状況を踏まえて、今、言った、昨年10月2日からことしの3月31日までの出生児で、同居の御家族にB型肝炎キャリアがいるとか、そういった感染リスクが高い子供さんについて予防接種を考えてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） ということは、同居の御家族のB型肝炎キャリアであるかどうかということ調べないといけないということですか。調べた上でキャリアであれば、じゃ、ということになりますか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） B型肝炎のキャリアかどうか調べるというのは大変難しいと思います。広報等をする中で、申請に基づいて接種するというような形になるかと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） リスクというのはどこにあるのかというのはわかりませんが、できればゼロ歳児という、くくられる部分の乳児さんについては、不公平感がないようにやっていただくと、財源的なことがなんでしょうけども、できればそういうふうな形でやっていただけたらなというふうに思います。

先ほども申しました1歳になったときに、半年のタイトな期間で受けることが、いろんな予防接種というのは本当にスケジュール的なことで難しいんです。熱が出て抗生物質を飲んでたらワクチンが打てないとか、いろんな問題が出てまいります。それを半年の間でクリアをしないといけないので、1歳を過ぎたときに、その分は有料になってしまう、定期接種から外れてしまう部分についての補助といいますか、助成のほうはいかがでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 今、町長が答弁したものと、今、池田議員がおっしゃられたことも含めまして検討していきたいというふうに思います。



○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） では、ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

では、次に、こども食堂についてです。

こども食堂、これは、ひとり親家庭や両親共働きによって、保護者の不在となる時間帯に一人で食事をしなくてはならない状況にある子供さんがふえているといえます。核家族化が進み、生活や勤務形態も多種多様な中、夜、子供だけの食事、いわゆる孤食といいますが、そういう状態となってしまいます。また、孤食だけではなく、栄養バランスが十分な食事をとることができていない子供さんもいらっしゃいます。そのような、さまざまな事情により家庭で十分な食事がとれなくなった子供に対しまして、無料もしくは安価な食事または居場所を提供することを目的に、こども食堂の開設が全国に広がりを見せています。このようなこども食堂という取り組みですけれども、最近よく報道等でも目や耳にするようになりましたけれども、日出町ではどう捉えていますでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 我が国では、子供の6人に1人が相対的貧困状態にあり、子供たちを養育する世帯のうち、ひとり親世帯、とりわけ母子世帯は、2世帯に1世帯が相対的貧困の中で生活を余儀なくされていると言われております。子供やひとり親世帯の貧困が大きな社会問題となっております。また、ひとり親家庭の子供は、ともすればひとりぼっちで過ごす時間が多くなりがちなことから、食事の提供やそれに伴います学習支援、見守りなどを行う子供の居場所づくりは必要なことではなかろうかというふうに思っております。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 県内各地で取り組んでる自治体がたくさんあるようなんですけれども、民間、行政問わず、どのくらいあるかを把握してらっしゃいますでしょうか。書きとめたいのでゆっくり言っていただけるとありがたいです。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 現在、県下でこども食堂に取り組んでいるのは、9自治体の17カ所で運営をしております。運営については、1カ所が自治体主導の運営であります。残りの16カ所は社会福祉法人や医療機関、NPO法人等の民間運営となっております。民間運営の16カ所に対する自治体からの財政支援については、現状では行っていないということになります。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 自治体主導で行ってるところは豊後高田市でよろしかったですか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） そのとおりでございます。豊後高田市でございます。補助金という形で支出をしております。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 新聞の記事等にも、こども食堂の取り組み、また、説明会ですとかセミナーを開いたという記事等も載っておりましたので、今、全国的に展開されているというのがそこにあるんだろうなというふうに感じております。いろんな角度からこども食堂を取り上げているわけですが、やり方もいろいろあるようです。廃棄する前の食材を寄附してもらったり、これ私、前回、食品ロスという形で一般質問をさせていただきましたけども、それに総体的な取り組みで行えることだと思うんです。例えば賞味期限が切れそうなものを寄附をしてもらおうとか、残った野菜を寄附をもらおうとか、そういった形で民間で、社会福祉法人さんとかで、そういったところが運営するのであれば、もうほとんどボランティアのような形になるのではないかなと思いますけども、行ける人を、先ほども貧困という言葉が出ました。私も通告書のほうに貧困というふうに書きましたけれども、余り使いたくない言葉ではあるんですが、中には、豊かでないというふうな言い方をする方もいらっしゃいますけれども、実際、社会的には子供の貧困というのが非常に問題になっているところですので、あえて貧困という言葉を使わせていただきますが、この子供を支えるというのがやっぱり一番の目的ではないかなというふうに思うんです。

誰でも行ける形、そういった貧困だとかいう言葉をこういうふうに出してしまうと、そこに行っている人が、ああ貧困なんだな、ひとり親家庭なんだなということがわかるというか、行きづらいかいというふうになってしまうので、本来であれば誰でも行ける形のものがないのではないかなというふうには思うんですけれども、日出町では取り組むというか、やろうという考えはありますか。

○議長（白水 昭義君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 町内のどの地域でどのぐらいのニーズがあるのか、把握できていないのが実情であります。町内の子育てに携わる関係機関や県内で先行して実施しております箇所の開設運営等の状況を調査し、子供の居場所づくりとして社会福祉法人やNPO等の民間事業者と協力して、積極的に取り組む必要があるかというふうには思っております。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） これは、自治体が主導ですというのは非常に課題が多いと思います、いろんな意味で。なので、今各関係団体と御相談をということでおっしゃいました。ので、そちらのほうでやっていただくといいのかなというふうには思いますけれども、町長はいかがでしょうか、こういう子供食堂の意義といいますか、それについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 子供食堂の意義というお話でございますが、町内でどのくらいニーズがあるのかというところが一番のポイントになるかと思うんです。こういった形で池田議員が質問されているわけですから、恐らくニーズを把握されておことだと思っておりますが、そういったニーズを踏まえながら、ほんとは取り組む必要があるのか、そこを考えていく必要があろうというふうに思います。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 今の家庭の状況が、先ほども申し上げましたけど、ひとり親家庭、また両親共働き、一生懸命働いて一生懸命生活をしていらっしゃる中でこういった孤食にならざるを得ない家庭もあると思うんです。だけど、それ以外にもいろんな事情で孤食になっている子供さんがいると思います。食べることだけではなくて、そこで皆さん多くの人数で集まってみんな食事をする楽しさとか、そういうものが子供の心を育てるという意味でも非常に大切なことではないかなというふうに思います。

大分大学の経済学部の学生が学習支援を主とした子供の居場所づくりの子供食堂をやっているということもありました。別府市では、お寺で、お寺の方がやっていらっしゃるという例もございますし、そういった、昔は家族大勢で、核家族ではなく、おじいさん、おばあちゃんが出て、みんなで楽しく食事をして、親がいなくてもおじいさん、おばあちゃんが留守番をしてくれて、家に帰ったら誰かがいるという世代で、私たちもそういった世代で育ちましたけど、今はそういった時代ではなくなって、社会環境がそういうふうにはなっていないので、やはり一人の与えられたものをレンジで温めて食べるだとか、お金だけ渡されて好きなものを買って食べなさいという状況になったりとか、非常に心が寂しいという状況ではないかなと。全部が全部とは言いませんが、そういう状況が多くある中で、この子供食堂というのは非常に重要といたしますか、大きな役割を果たすのではないかなというふうに感じています。

その別府のお寺の方が書かれた記事の抜粋ですけれども、その家族のどんらんが減って、お金だけ渡されてファーストフードやコンビニで好きなものを買って、簡単に済ませてしまうという、そういったものが出たことに心を痛めてというふうには書いてありました。やっぱりそれじゃいけないと思うその気持ちがやはり地域の力ではないのかなというふうに思います。我が子だけではなくて、地域や社会で子供を育てるという意味では、非常にこれは大きな役割を果たすのではないかなというふうに思いますので、どうか前向きに。検討していただけるとはいうことですが、どうかしたら、私その食堂で御飯をつくってもいいなと思うぐらい、あれば、場所が。場所等が、例えば福祉センターですとか交流広場ひかりの喫茶室、あいていますよね。ああいったところを活用してできるのではないかなというふうに思っていますけども、もしやろうという

か、関係団体と相談の上という答弁を先ほどいただきましたけれども、まずとっかかり、一番初めにするのはどういった形で協議を持たれるんですか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） ただいまの御質問の中で、池田議員の思いはしっかりわかりました。だから、私最初に申し上げたように、どのくらいのニーズがあるのか、ニーズがない中で始めても、それはどういうものかなと思うんです。だから、そこ辺のニーズを教えていただきたい。というところが私の検討するに当たっての出発点になろうというふうに思っています。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） では、ニーズ調査を私行わせていただきます。どういった形で行うかはあれですけども、きちんと数字を出して町長にお届けしますので、ぜひ前向きに検討のほうをお願いしたいと思います。

では、次の質問に移ります。非構造部材の耐震工事についてであります。

この件については、25年3月議会におきまして、そのとき2度目の質問をいたしました。そのときは、たしか国からの大きな補正予算があるということで、前倒し事業ができるという中で、この耐震の工事ができないかという形で質問をしたと記憶しております。当時の担当課長より、耐震化ガイドブックに沿って可能なものから順次実施し、建築士などの専門の人員による非構造部材の耐震調査、点検についても早い時期に着手したいと考えておりますとの答弁をいただきました。

単刀直入にお聞きいたします。点検はその後行いましたか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長、藤本英示君。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 池田議員の御質問にお答えします。

日出町では平成24年に、国が示したチェックリストをもとに、全小中学校、幼稚園の職員による学校施設全体の点検を実施いたしました。また、教育委員会では、毎年、都市建設課建築係の職員の協力を得て、合同で学校施設修繕要望箇所の調査を実施しております。その際には、訪問した各小中学校、幼稚園の施設について目視による点検を行っているところです。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） それで大丈夫ですか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 点検の結果を申し上げますと、行った調査の結果では、小中学校の体育館につきましては、内壁や外壁の一部にひびや破損等の一部箇所があるものの、危険度が高く緊急的対応が求められるといった事案はありませんでした。しかしながら、そ

れをもって万全と考えているわけではありませんので、落下等による不慮の事故が発生しないよう、危険箇所の早期発見と迅速な修繕、改修に努めたいと考えております。

また、最近では施設の老朽化対策が重要な課題となっておりますので、非構造部材に係る耐震化対応を含め、各施設の長寿命化計画を立て、国の補助金等を有効に利用できるように検討を行って、町の財政状況に配慮しながら計画的な整備に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9 番。

○議員（9 番 池田 淳子君） この町の職員の方の目視検査、町の職員の方と学校の職員の方の目視、チェックリストに伴った検査というのはいつ行ったんですか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 都市建設課職員と教育委員会の職員との調査は、毎年、修繕予防箇所の調査を毎年実施しておりますので、その調査の際、各学校の現地に赴いて現場を見ておりますので、毎年行っているという形になります。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 9 番。

○議員（9 番 池田 淳子君） その内壁、ひび等があるとわかったのはいつの点検でわかったんですか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 先ほど申し上げましたひび等の調査結果というのは、24年の調査の際に判明したところであります。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 9 番。

○議員（9 番 池田 淳子君） 24年ということは、4年たっているということですよ。4年たって、熊本大分地震が直接日出町には被害はなかったですけど、私が質問をして、早急迅速に修理をしないといけないと思いますという御答弁は、私はいかがなものかなと思いますよ。

非構造部材というのはいろいろ学校の中、公共施設もそうですけど、窓ガラスであるとか天井の照明器具であるとか、天井自体もそうですけど、そういったものが落下をしてくる危険性だつてあるわけです。そういったものの点検は行ってはないんですか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 非構造部材につきましては、議員おっしゃるとおりいろんな種類がございます。国のほうが緊急点検を特に強く言っておりましたのは、つり天井の部分であろうかと思えます。つり天井の構造をしている施設というのは、いろんな施設がつり天

井になっておりまして、この議場もそうかと思えます。

ただ、建築基準法の改正による天井脱落対策に基づいて対応が求められておりますいわゆる特定天井に当たるものは、高さが6メートルを超えて面積200平米を超え、1平方メートル当たりの出量が2キログラムを超えるものとなっておりますので、それに該当する施設は調査の結果なかったということになっております。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 今言うこのガイドラインの中にありますけれども、非構造部材、ピアノですとかバスケットゴールとか、また図書館には本棚もあります。玄関には靴箱もあります。そういったものも全て非構造部材になるわけです。先ほど申し上げましたが、阪神淡路大震災のときだったと思いますけど、たしか非構造部材、天井が落ちてきて避難所として使えなかったという例もありましたし、たしか4年前の12月に笹子トンネルの天井が落下事故で9名の方が亡くなるという痛ましい事故も起こっているわけです。恐らく、大丈夫だろうという変な安心感というのが、全てに言えるのかもしれませんが、そんなに急がなくても大丈夫だろう、日出町大丈夫だろうという、何かそういった安心感みたいなものがあってのおくれなのかなというふうに私は危惧をしております。

要求されるのはやっぱり安心です。体育館については、子供たちが体育の授業をしたり、全校集会があったりと、いろんなことでやっぱり体育館は使います。理科室の天井にしても校舎内にしても、ある程度の震度を想定して、想定以上のものが来たときにはもうやむを得ないというところもあるかもしれませんが、ある程度の基準の部分で、例えば震度7までだったら大丈夫だというふうな、何か1つ基準をしっかりとっていただいて、これだけ点検をしているというふうなものが欲しかったんです。

前回の答弁のときに、建築士など専門の人員というふうにおっしゃっているわけです。そこを、予算がかかることでしょうか、これ国から補助が出ますよね、たしか。これは改善に、工事に出るのかな。検査には出ませんか。検査にもたしか補助が出るとこれには書いてありますので、しっかり専門の方の診断を1度受けていただいて、定期的に、年に1回の目視の検査、それも当然必要です。学校の先生、また担当課都市建設課の職員の方たちにも御協力をいただいていることも大事ですけど、しっかり専門の方からの御指導、点検というのは喫緊に考えていらっしゃいませんか。

○議長（白水 昭義君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（藤本 英示君） 非構造部材の耐震化になろうかと思うんですが、先ほど議員がおっしゃるとおり、国の補助がつく事業だと思います。調査につきましても、恐らく前年度対象となる非構造部材の耐震化をする施設についての調査につきましては、補助対象にな

と思います。ですので、具体的に非構造部材の耐震化工事を行うと決めた前年に専門の調査を実施して、補助対とするのが得策かなと考えておりますので、先ほどちょっと申し上げましたが、施設の長寿命化計画というのともあわせて考えていかないといけないというふうになっておりますので、非構造部材の耐震化と長寿命化による改修というのをあわせて考えて、時期を見ながら取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） このガイドラインには、地震による落下物や転倒物から子供たちを守るためにという附則がついていますので、やはりその辺はしっかりと考えていただきたいと思います。

先ほどつり天井の答弁をいただいたので、そこの質問は省かせていただきますけれども、町長はこの点についていかがお考えでいらっしゃいますか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 児童生徒が教育を受ける中で、安全な環境で受けることは大切なことだと思っております。適切に対処すべきものだというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 教育長はいかがお考えでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 教育長。

○教育長（堀 仁一郎君） 今町長の申し上げたとおりだと思っております。また、教育委員会では、学校の中における教員の点検活動、そういったものも数をふやすなどして、早目に、ふぐあいの生じたところについてはチェックをしていただくようにしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） ぜひよろしく願いいたしたいと思っております。

では、最後の質問であります文化ホール建設についての質問ですが、現在、日出町では大きな催し物や音楽関係のイベントの開催には中央公民館が使われています。中央公民館のホールを使っているわけですがけれども、収容人数が、済みません、ちょっと正確にはあれですけど、300人を少し超える程度だと認識をしております。

私が言うまでもなく、設備面は十分とは言えません。音楽関係のイベントの際には専用の機材を持ち込んでセットをしてくださっていると、開催者の方が。そういうふうに聞いてもおります。

また、町民の方との対話の中でも、文化ホール建設を望む超えをよく私は聞いております。本

田町長は、町民との対話を大切にしながら日々の職務を遂行しておられると思いますし、選挙期間中にも多くの方と対話をされたことと思います。その中で、文化ホール建設の要望は聞いていませんか。また、担当課で把握はしていますでしょうか、御答弁をお願いします。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長、佐藤寛爾君。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 文化ホールの建設要望ということですが、担当課としましてはここ一、二年の間は直接的には聞いておりません。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 町長は聞いていませんか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） ニーズにつきましては二、三の方からお聞きしたことはございます。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 二、三名ということですがけれども、私の数とはちょっと違いますが、対話の数がどうなのかなというふうにも思いますけど。

文化祭りの際に、滝廉太郎音楽祭をしているのは、町長、御存じだと思います。お名前を出してあれですけど堀先生がほんとに個人のお力で各関係の方にも、一流の演奏をされる方、ピアノだとかいろんな楽器を演奏される方を招待して、ほんとに、たくさんのお金を出さないと聞けないようなそういった音楽会をしてくださっているんです。御尽力いただいているんです。

そのときに、音響が、やっぱりああいった設備ですので、御自分で音響板というのをさせていただいて演奏をやっているわけです。その堀先生がどうこうとかではないんですけれども、そういう個人的に御尽力をいただいている方もいらっしゃるし、カラオケをやっている方、またいろんな方が、そういったホールが欲しいような、1回陳情かなんかが、要望書かなんかが届いているとは思いますが、ここ一、二年の間には届いていないということですが、もちろん課題といいますか、建設費用がかさみますので、そう簡単にできるとは私も思っておりません。

ですけれども、そういった要望がある中でいろんな広さがあるとは思いますが、例えば千人規模、千席収容できる施設を建設するとして、駐車場等も含めるとなるとは思いますが、土地の面積、工事期間、費用等建設に必要な要素を全て教えてください。

○議長（白水 昭義君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤 寛爾君） 文化ホールといいましてもいろんな形態があるようでありまして、ホール及び会議室等附帯施設を盛り込んだような形態が多いように感じております。たとえ



ということになります。Aホールの場合は、公民館機能を持ちながらホール収容人員約700、敷地面積6,400平方メートル、建築面積約2,900平方メートルで、設計期間6カ月、工事期間1年6カ月で、工事費約17億2,200万円、周辺環境整備、駐車場等の整備ということになるんだと思いますが、6,800万円、合計約17億7千万円程度の費用というような形になっております。

以上です。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） もちろん給食センターの建設もありますし、たくさん課題はあることは承知をしておりますが、じっくり検討していただくことも要望したいんですけれども、建設する意思というものはありますでしょうか。全くもう建設はしない、そういったものは要らないというふうにお考えでしょうか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 文化ホール建設に当たってのいろんな障害については、今議員のほうからおっしゃっていただきましたので、私から多くを申し上げる必要はないかなと思っております。

建設の意思ということでございますけれども、文化ホールの必要性は感じてはおります。ただ、人口減少化時代、そういった中で、1つは町単独で所有する必要があるのか、そういったことも含めながら考慮する必要があると思っております。

議員もおっしゃいましたけど、給食センターの建てかえ等控えておりますので、長期的に検討していかなければならないだろうなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 9番。

○議員（9番 池田 淳子君） 優先順位があるでしょうから、将来的でも構いません。じっくり検討していただいて、また対話をしていただく中でそういった多くの声があれば建設に向けて、建設検討委員会なるものを立ち上げていただいて、どのぐらいの将来になるかわかりませんが、そういった声があったということをここで届けさせていただきましたので、よろしくお願いいたしますと思います。

これで私の一般質問を終わります。

.....

○議長（白水 昭義君） 15番、佐藤二郎君。15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 最後の質問者となりました。議員の皆さん、また傍聴の皆さん方、大変お疲れだと思いますが、もう少しおつき合いをいただきたいと思います。執行部の方々におかれましても、ほんとに御迷惑かけますが、町民の声をしっかりと伝えたいと思います。よ

ろしくお願ひしたいと思ひます。15番、佐藤二郎でございます。

ことしも残すところ一月余りとなりました。思い返せば、ことしは災害の非常に多かった年だと改めて私自身感じております。今回の一般質問の中でも、防災についての質問もございました。やはり災害というのは忘れたころにやってくるとよく言われます。そういう中での議論、やはり有事のときに備えがしっかりとしているかしていないか、これが今一番問われていんじゃないかなというふうにも感じたところでございます。

そういった中、本田町長以下執行部の方々、ほんとに毎日町民の福祉の向上、日出町発展のために御尽力をいただいていることを深く感謝を申し上げて始めさせていただきたいと思ひます。

さて、本田町長、就任以来初めての予算編成に取り組もうかとしていると思ひます。さきに、あすへの活力と子供の未来を育む安心予算、そして住むなら日出町と言われるまちづくりの推進をテーマに予算編成方針を職員に通達したとお伺ひしました。

少子化が叫ばれ、もう随分となります。本町でも平成24年の2万8,923人をピークに、本年11月の時点では2万8,750人と減少が進んできております。また、平成27年度に行われました国勢調査では、2万8,058人と表示されました。5年前の平成22年の調査では2万8,221人であったそうです。この5年間で161人の人口減が調査結果としてあらわれております。

この人口減少は、地域経済の縮小や個人消費の減少、強いて言うならば日出町の町税収入の減少へとつながってまいります。町民のための行政サービスの充実、町長の言われる、住むなら日出町の各種施策実現にも厳しくなると考えます。

そこで伺ひます。日出町の現在の人口動態をどのように受けとめているのか、町長の声をお伺ひしたいと思ひます。

○議長（白水 昭義君） 町長、本田博文君。

○町長（本田 博文君） 佐藤二郎議員の御質問にお答えいたします。

これまでの日出町は、県内でも大分市と並んで人口増加の町という位置づけにございましたけれども、昭和40年代後半から増加していた日出町の人口も、平成25年に減少に転じました。

日本の総人口は減少傾向にあり、人口減少問題は日出町のみならず、国立社会保障人口問題研究所の発表した推計においても、全国的な問題でございます。人口の減少は地域のみならず、日出町全体の活力の衰退につながりかねないことから、非常に重要な問題だと認識をしております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） まさに模範的な御回答をいただきましてありがとうございます。

やはり人が減るということ、地域が疲弊するという、やはり根本だと思ひます。そういう中で、

今町長申されましたように、当日出町はこれまで県下唯一の増加の町でございました。時には、前の町長は、3万人の町を目指すと大きなテーマを掲げておりました。住基では、先ほど申し上げましたように3万人に数十人足りない状況まで達したわけでございます。

そういう中で、社会の情勢で本町も少子化が加速してきたと言っているんじゃないかな、ふえているところが減になったわけですから加速していたんですが、これはやはり少子化といいますか、この問題が一番大きかったのではないかなというふうに感じております。やはり少子化による自然減、やっぱり人口動態によって自然減というのが非常に足を引っ張るといいますか、そういうところで、当町においては、これまでは流入人口の増加でこれを補っていたと、こういうのが日出町の体系だったのではないかと思います。

そこで、町長いかがでしょうか。日出町の人口、今国調で2万8,058ですか、表示されましたけれども、日出町はそれじゃ大体どれぐらいの人口が適当かな。なかなか難しい質問をして申しわけないんですが、町長目標とする人口どれぐらいが望ましいかな、どれぐらいを目標にしたいかな、特にお気持ち、お考えがあれば教えてください。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 望ましい人口ということでございます。日出町では平成27年9月に日出町人口ビジョンを策定いたしまして、将来人口の展望を推計いたしました。この人口ビジョンの前提としております国立社会保障人口問題研究所、通称社人研と申しますが、こちらが推計した日出町の今から44年後の2060年の人口は2万2,224人ということでありますけれども、日出町人口ビジョンでは2万6,995人、4,771名それよりもふやそうということで、2万6,995人を目指すということを策定しております。

しかしながら、2060年は余りに遠い話でありますので、人口ビジョン策定から10年後の数字をお示しをいたしますと、社人研の推計値が2万7,267人であるのに対して、日出町人口ビジョンでは2万7,765人としております。私は、この日出町人口ビジョンで示した10年後の数値が一つの目安となるのではないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 今のデータといいますか、調査というのは非常によく当たります。正確性が非常にあると思います。そういう中で、今町長もそういった人口ビジョンで策定された数字をそのまま読み上げておられるようなんですが、やはり施策、何もしなければ、どーんと減ってくる。これはもう目に見えていると思います。そういう点で、町長も29年度の予算編成方針でいろんな施策をその中から打ち出そうとされています。

少し私寂しかったんですが、目標はそうあるけれども、もう少し頑張ってもらいたいということ

をつけ加えたいなと思います。頑張っただけならば、私はこの日出の町というのは、何が要因か、やはり地の利だとは思えます。県と大分市、また観光地別府市に隣接するこの別府湾岸の非常に利便性の高い、そして先ほど来出ておりますような安全な地形でもあると。こういう利便性の高い地の利があるという形で、単なる統計だけ、まあ統計にもこういうことも十分加味されているんでしょうけれども、ぜひとも2万7,765人じゃなくて、現状維持ぐらいを、町長、就任したばかりです。ぜひとも維持していきたいというふうに町民に打って出ただけると、町長に期待するところが非常に大きくなるんじゃないかなというふうに感じております。

それでは、次に人口減少に対する施策について一、二お伺いしたいと思います。

先ほど来申し上げてまいりましたように、自然減、社会減、こういう減減というのが重なってくると加速してまいります。これまでの日出町の人口動態とは真逆な状況が出てくるわけがございます。そういう中で、やはりこの人口減少を食い止めるための人口を増加する、転換させるための施策がこれまでどうも私は生かされ切っていないんじゃないか。生かされていないとは言いません。生かされ切っていないんじゃないかと、こういうふうに感じております。

そういう中で少子高齢化はますます進んでくると。この高齢化はこれは避けて通れません。しかし、少子化は手を打てばどうかなるんじゃないかな、こういうふうにも思っております。そういう中で、先ほど町長が申されたように、人口ビジョンをつくり、地方創生にちなんだ戦略というものを掲げております。そういうところで、具体的にその中でつまんでいただいて、少子化対策に対してどのような考え方を町長お持ちなのか、ここで改めてお伺いをしたいと思います。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 少子化対策についてでございます。

少子化対策については、まずは若い世代あるいは働く保護者が安心して子供を産み育てることが出来る環境の整備が必要だろうというふうに思っております。具体的には、保育所や放課後児童クラブの整備を行って、保護者が安心して働ける環境づくりに努めていきたいと思っております。

また、在宅で育児をされている家庭においては、保護者の孤立化を防ぐために、児童館はもとより、保護者の悩みや相談を必要な支援先につなぐ利用者支援事業やファミリーサポート事業、これを強化してまいりたいというふうに思っております。

さらには、妊娠・出産・育児を経験する保護者への切れ目ない包括的な支援に努めて、それとともに医療費の無料化の拡大にも取り組んで、安心して産み育てることが出来る環境の整備を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 大体特質したものというのは町長、公約に掲げた子供医療費の無料化、ほんといいことだと思います。大賛成です。よく取り組まれますねという、これからでございますが。後の施策に関しては、やはりこれまで総合戦略の中でもうたわれてきております。そういうことの27年度の実績等を見ますと、まあまあ5年間のサイドの中で一つ一つは消化しているんじゃないかなと思います。

先般町長、子供をぜひ産んで育てていける環境の支援がと先ほども申されましたけれども、数字を言われているでしょう。2人ないし3人の子供をぜひとも産んでほしいと、それがいいことだというふうにさきの質問で申されているんですが、この2人、3人の子供を授かっていただくように、具体的な何か総合戦略以外の、実際にハード的なもの等も十分進んでおります。そうすると、もう担当課、十分進めております。それ以上のもの、何かないかなというふうにはずっと私も感じております。国も義務教育を無償にしました。高等学校の教育費も無償にしました。次は、国は幼稚園の保育料を無償にしようという形で進めてきたんですが、消費税の関係でとまっております。こういう状況まで国が先に打ち出しかけている。やはり少子化から子育て支援というつながってくるんですけれども、やはり少子化は、子供は産んでもらう。2人なり3人、せめて3人のお子さんを持っていただく、これが減にならない、物理的に。その辺のところを町長、具体的に少子化で、3人ぜひ産んでほしいというお気持ち、また具体的に何かお持ちになっているものはございませんか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 少子化の中で、2人、3人を産んでいただけるような施策ということのようでございます。子供医療費の無料化の拡大というのは、そういったところに1つは資するかなという思いで始めようとしているところでございます。そのほかのなかなか、子供さんを産んでもらえる施策というのは私も非常に難しいと思っております。特段今思いつくような施策はありませんが、いろんな先進的な取り組みを勉強させていただく中で、本町が取り組めるものがあれば考えていきたいというふうに思っております。お知恵等がありましたらお聞かせいただきたいと思う次第でございます。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 福祉対策課長、子供出生率は今日出町はどれくらいですか。およそわかりますか。申しわけない。（発言する者あり）もしわかれば、参考に。

○議長（白水 昭義君） どなたが答えるんですか。（発言する者あり）政策推進課長、大塚一路君。

○政策推進課長（大塚 一路君） 先ほど答弁の中にありました人口ビジョンの中に、一応

2010年から15年の間、1.55という数字を掲げております。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 合計特殊だと思えます。大変低いんです。もうほんとにこの日出町でこういう状況なんで、ぜひともまたこれから私も、議員活動をする中で町長ともゆっくりお話していきたいと思っているんですが、少子化というのがこれ一番日出町を元気にするか。そして、小さく縮んでいくか、これやはり鍵じゃないかなというふうに思えます。特に、やはり国の交付税措置においても、交付金においても、国政調査の人口が基準財政需要額、こういうところに反映されてくるんじゃないかと思えますし、今言いました2万6千台になってきたらどうなるのかなという心配をしております。

そこで、ちょっと飛ばしますが、続けて、子育て支援について関連がございますので、この点についてお伺いをしてまいりたいと思えます。

今、おっしゃったように、子供医療費等も子育て支援の一つじゃないかと思えますが、子育て支援についての考え方、ダブると思うんですが、特に改めて答弁、準備しているものがあればお伺いします。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 子供医療費の無料化の拡大が子育て支援の、私の目玉でございました。それと、低所得者に限るということで考えておりますけれども、給付型奨学金とそういった形のもを子育て支援の一つに考えております。

それ以外に大きなものとしては、妊娠、出産、育児への包括的な支援を行う包括支援センター的な部分、そういったところが大事になろうかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 日出町は随分前は福祉の町という、もう覚えている方は、執行部の方、いらっしゃいますか。福祉の町というふうに長らく言われていたんです。どこが福祉かえというふうに私ども随分言われてまいりました。

そういう中で、今福祉とその支援、子育て支援、一つになるところもあろうかと思えますが、町長が言われたように、子育てにはどうしても経済的負担というのが非常に大きいということで、若い方々に子供さんを産んでもらうためにはや経済的負担を軽減してあげることが一番大きな政策として大きなねらいじゃないかなと、こういうふうに私常々感じております。

私も保育所を経営している関係で、保護者の方々にアンケートをした経緯がございます。もう一人子供を産めませんかという項目がございました。そうしましたら、括弧書きに、子供にお金がかからなかったらもう一人産んでいいというのが60%を超えているんですよ。何かなと思

ましたら保育料を安くしてくれというんです。保育料をただにしてくれと。そうすれば、2人いる子供を3人にしますと。アンケートではこれ名前を入れてアンケートをやったんですけども、そういうデータ、さきに前町長には提出をさせていただきましたけれども、そういう形で、経済的負担が非常に大きいという。環境の問題、そういう点でいろいろあろうかと思いますが、実際にそういう保護者の方々から具体的に声を聞いております。ぜひともこのことも町長にお届けしたいなと思ひまして、きょう、改めてここで質問をさせていただきました。

医療費も出ておりました。非常に高かったです。日出町500円出したら、あと医療費はと、こういうようなことも進めてまいりました。日出町も福祉の町、先ほど言いましたが、なぜ言いましたかという、福祉の町と言われているけれども、国が示している義務的福祉の町は当然やっていたらいい。しかし、日出町単独の福祉施策というのが非常に取り組むことがおくれておりました。そういう観点から、本田町長においては、率先して子供の医療費、そして奨学金制度、こういう形に取り組んだことにはほんとうと敬意をあらわしたいと思ひます。今後とも実際に一つ一つ取り組んでいただきたいと思ひます。

それでは、次にまいります。先ほど来、国勢調査のあたりデータをずっと今回改めて見させていただきました。その中で、5年前の22年の調査から今回の27年の調査で、15歳から64歳まで人口動態を見させていただきました。ちょうど現役世代と引退した世代になるわけですが、15歳から64歳までの人口が1,054人減っております。そして、65歳以上の人口が1,086人増加しております。こういった状況を見ますと、10年先どうなるんだろうかなというふうに感じたところでございます。

そこで、町長、高齢者に対する行政の手当てといいますか、施策、この辺をどういうふうにお考えかお聞かせください。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 高齢者の皆さんに対する考えということでございます。今後、高齢化が進んでいく中で、高齢者の皆さん方に対してどうするかというところについては、やはり住みなれた地域で安心して自分らしい老後を送ることができる体制づくりが必要ではないかと思っております。介護を必要とせず、健康でいられる健康寿命の延伸というところに意を払っていきたいと思っております。

健康寿命を延ばすことは高齢者自身の生活の質の向上につながることから、人口減少社会においても重要な施策になると考えております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） そのとおりなんです。

一番は、元気で病院に通わない人たちをたくさんつくるということが一番だと思います。また、お元気で就労をしていただくということが日出町にとって大変助かると思いますか、本人にとっても元気で、健康で働けるというこの意欲という、これが養われてくるわけでございますので、この辺のところ、今言う健康寿命を延ばすという、そういうことの施策を具体的に担当課のほうで取り組んでいただけるように、今回の町長の基本方針でも若干うたわれておりますが、具体的に指示をしていただき、これまでの施策が、先ほど私が申し上げたように、ほんとに生かされてない。なかなか町民の方々に理解をしていただけていない、この辺を少し少人数の職員で指導しておりますので大変だと思いますけれども、ぜひとも町長がかわったのを契機に、さらなる取り組みに励んでいただきたいなど、こういうふうに思っております。

具体的にぜひとも掲げていただきたいもの多々ございますが、時間もございませんので、ぜひとも町長、この点、やはり健康寿命、元気で生きていただく、生活していただく、このことをぜひとも各種会合等で口に出してお話をしていただけるとありがたいかな。そうすれば、担当課の方々もそのための事業、こういう事業があるんです、こういうことをやっている意味はこうですよと、こういう形になろうかと思っております。これやはり政治家の努めだと思いますので、ぜひとも、町長も行政マンから政治家に変わりましたので、そういうことを町民にぜひとも吹聴していただき、啓蒙していただくと大変ありがたいなというふうに思っております。これもつけ加えさせていただきますと思います。

それでは、次に通告にあります行財政改革についてお伺いいたします。

まずはじめに、財政についてお伺いしたいと思っております。

平成の大合併で、県下58の市町村が18の市町村に集約をされました。日出町も、1市2町1村で合併協議会を立ち上げ、12年前に合併に賛同し、同意をいたしました。現在の県知事立ち会いのもと、日出町も1市2町1村で調印式を行いました、合併に向けての。しかしながら、これを破棄し、単独のまちづくりへと邁進し始めたわけでございます。ちょうど私もその場に立ち会った一人でございますが、私はどちらかというと合併を推進したほうでございまして、町長の今回の選挙でも、合併を県の推奨した合併に反対した町長さん、早く消えてほしいと言わんばかりの選挙が若干私の耳にも耳ざわりとして入ってまいりました。

そういう意味で、本田町長も当時県におられました。多分日出町の動向というのを十分承知していたことだと思います。

町長かわった途端に、きょうの一般質問にありました知事が早速日出町のほうに知事のほうから出てきていただいたと、こういうような大変明るい御報告をいただきました。もう当時かわった議員も少なくなっておりますが、残っているのは多分合併に推進した議員ではないかと思っておりますが、私どもちょっと反対の状況にありましたけれども、この12年間、大変日出町は苦勞し



ました。やはり国・県の有利な支援というのは、合併をしない町は独自で歩けるんでしょと、どうぞ頑張ってくださいと、こういうのがスタンスでございました。そういう中で、合併を単独でいく町長は、町民の方々に大変辛抱を強いてまいりました。

当時約100億に届こうかとしていた一般会計だったと思います。それが70億台ぐらいまでにどんどん落ちてまいりました。やっと昨年度決算が100億を超えたと、こういう状況に12年かかってもとに戻った状況でございます。

そういう中で、1例申し上げておきます。生活道路等の整備でございますが、これにつきまして地元から区長さん以下地域の方の要望があれば用地の提供があれば町で工事は考えましようとか、当時の町長が苦肉の策で各区長さんにお話ししたことが始まりで、町道整備等地域の方の財産を提供すれば道路整備をしてあげますよと、こういう形が始まったわけでございます。今でも地域から要望があれば役場の担当者が、土地は出してくれますかですよ。こういった状況がこの12年間続いてきたわけです。

地区によっては、あの人が土地を出さないから道路の整備ができないと。地域の方から指をさされるんです。あの人が土地を出さんからやち。近所づき合いがうまくいかなかったとか、こういうお話を多々私も耳にいたしました。また、道路関係では、まず町道の白線が見えなくなります。そして、町道の道路の横の樹木がどんどん道路に覆いかぶさってくるんです。こういった一時でも過ごせるものの行政サービスがどんどん低下してきたのがこの合併騒動以後続いてまいりました。

こういった大変苦しい時代を12年間過ごしてまいりました。苦情も地域から多く私も議員として聞かされてまいりました。こういった状況下の中、ほんとに町長も新年度の予算で厳しい状況を提示しておりますが、今の日出町の財政状況を町長はどういうふうにとめられているのか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 日出町の財政状況についてでございます。

職員からも話を聞いておりますと、決して楽観できる状況にはないと認識をしております。平成27年度の決算では、町税や地方交付税、地方消費税交付金といったものが伸びたことによりまして財政指標等はおおむね良好な数字となりましたが、28年度の決算見込みでは、普通交付税と臨時財政対策債の大幅な減少、町税の伸び悩みによりまして経常収支比率等の数値は悪化することが確実な状況でございます。

また、本町の財政運営を厳しいものとしている最大の要因は、県内最下位であります財政調整基金等の基金保有額の少なさにあると思っております。中長期的な視野で日出町の財政運営を考える必要がありますが、現在は常に基金の枯渇が不安視される状況下での予算編成・財政運営と

なっております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） そうですね。大変厳しいんですよ、まだまだ。そういった状況で、やはり前町長苦肉の策で町道の整備等、工事費だけでやっていったって。誘致費は全く提供しない、まあ全くじゃございませんよ。大多数。そういう状況があったというこの現実がございます。

全国の市町村で財政がいいなんていうのはごく一握り、不交付団体以外にないんじゃないかと思っておりますので、大多数が交付金団体でございます。そういう中で、今町長が言われたように、自主財源率が40%ほどある、こういう状況も日出町としても近年ないんじゃないかなと、ますます厳しくなっているなというのを私自身感じております。

そういう中で、町長が目指す町政、なかなか多難な船出をせざるを得んのかなというふうな感じもいたしますが、この財政に対するちょっと、またわかりにくい質問をして申しわけないんですが、健全な財政が一番いいんですけれども、こういった状況下の中で、町長が当面目指そうとする財政の目標といたしますか、そういうのを町長の考えとして、きょうはもう各課長さん方、一々数字的なものを私お伺いする暇なかったんで、町長は新任の町長でもございますし、新たな予算を組もうかとしておりますので、町長だけで大変申しわけないんですが、町長に対して財政に対する質問、こういった財政になるように頑張りますというのをお伺いできればありがたいと思います。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 財政の目標ということでございます。町税などで納めていただいた税金は、町民に住民サービスという形で還元することは当然でありますけれども、一方で、長期的に安定した町財政を維持することも町民の負託に応えるための使命であると思っております。そのためには、ある程度の基金残高を維持していかなければならないと思っております。

今年度の決算見込みでは、大幅な財源不足から多額の基金取り崩しが予想されております。平成29年度の当初予算では、財政調整基金が10億円を維持できるよう目標として予算編成を行ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 私も全く同感でございます。ぜひそういう苦しい船出でございます。しっかりやっていただきたいなと思います。

そこで、町長、今財調のお話が出ました。収支のプライマリーバランスについてどういうふう

にお考えですか。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） プライマリーバランスということでございます。平成27年度末の町債の残高は、一般会計で初めて100億円を超しております。近年は学校施設を初めとする耐震化事業、それから日出城趾場谷駅周辺整備事業といった普通建設事業を積極的に実施をしてきております。また、今後につきましても、先ほど来話題に上がっております給食センターの更新の事業、あるいは小中学校の空調設備の整備事業といった大型の事業が控えておりますことから、町債残高はさらに増加して実質公債費比率や将来負担比率といった財政指標は悪化していくことが予想されております。

私は、29年度予算当初予算の編成方針のテーマに、議員もおっしゃっておられたように、あすへの活力と子供の未来を育む安心予算ということを掲げております。安心して子育てができるまちづくりとともに、財政運営においては起債の借り入れ額、それと起債の償還額の増減、そしておっしゃっておられたプライマリーバランスを注視していくことで未来の子供たちにできるだけ負担をかけないように努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 町長、済みません、プライマリーを注視するという御発言なんです、守るんですか壊すんですか、どちらですか。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） これは、できるだけ守っていきたいと思っております。ただ、注視すると申し上げましたのが、いろんな事業、町民の求める対策、そういったことの中でやむを得ず壊さざるを得ない場合も出てくるのではないかという思いで注視と申し上げたところでございます。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） ぜひとも前町長の状況にならないように、前町長、就任したときはプライマリー絶対守るという形で、最後の4年間、壊してしまいました。私はずっとこのプライマリー、町長就任して以来、私は指摘してまいりました。最後の何年間にこういう状況に持っていました、やはり。ぜひともこの辺のところをしっかりと捉えていていただきたいと思えます。

最後の質問をさせていただきます。行政改革、どのようなことを、具体的にお伺いできませんか。行政改革。

○議長（白水 昭義君） 町長。

○町長（本田 博文君） 行財政改革ということで……。

○議員（15番 佐藤 二郎君） いや、行政改革。

○町長（本田 博文君） 行政改革。議員御承知のように、日出町はさかのぼること12年ほど前に、合併をしないで単独の町政運営を選択をいたしました。その中で、日出町の財政状況も財政債権団体への転落さえ危惧される状況という中で、まず最初に日出町行財政改革プランで行政改革にも手をつけられたところでございます。

その後、第2次行財政改革プランを策定された中では、事務事業のほうに重点を置いて改革を行ってこられたところでございます。私が考える行政改革といたしましては、多様化する住民ニーズや少子高齢化対策などのふえ続ける行政需要に応えるために各施策の必要性、緊急性の優先度を勘案して、選択と集中の観点により予算及び人材の重点化を図るとともに、不必要な経費の削減に努めるつもりでございます。そのためにも、事務事業評価制度をさらに精査構築をいたしまして、いずれは外部評価制度も視野に入れた評価制度を考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（白水 昭義君） 15番。

○議員（15番 佐藤 二郎君） 言われることはよくわかりました。具体的には今後の議員活動の中で再度確認をしながら、日出町発展のために私も微力ながら進言してまいりたいと思います。ぜひともPDCAサイクルというんですか、やはりスクラップアンドビルドという、こういうのをどんどんやっていただいて、日出町を変えていただきたい。そしてやっぱり活力のある日出町、そのためにはやはり人口をいかに減さない、ふやすという、増加させるという、やはりそういったところが活力じゃないかと思えます。ぜひとも県とのパイプ、国とのパイプ、しっかりととっていただき、連携していただき、日出町の発展に十分御活躍いただきますよう、心よりお願いを申し上げて、私の質問を終えたいと思います。ありがとうございました。

○議長（白水 昭義君） これで一般質問を終わります。

---

### 散会の宣告

○議長（白水 昭義君） 以上で本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（白水 昭義君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれで散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。どうも御苦勞でございました。

午後2時42分散会

---